

山名	所在	地	産種	産額
牛田	伊達郡牛田村		金	一一五、七三一
高玉	安達郡高川村		同	二二一、六九九
高坑	同		同	一二六、〇五四
加納	耶麻郡加納村		同	三六〇、六三一
吾妻	同 吾妻村		同	三四九、八三四
八重	石城郡大野村		同	八〇三、九一九
入山	同 郡内郷、湯本、飯野、磐崎各村		同	一、五一三、〇〇二
内郷	同 其輪、好間、内郷、湯本、飯野、磐崎各村		同	一、〇二一、五九三
小野	同 湯本、磐崎、内郷各村		同	六三一、五〇三
好間	同 好間、赤井各村		同	四七六、一三一
隅田	同 好間、内郷各村		同	一一二、八〇八

第二節 土石類

本縣ニハ建築材タル安山岩凝灰岩花崗岩片麻岩等工業用タル石灰岩硅石硅砂白土陶土等有用土石類少カラサルモ其ノ産額未タ多カラス多少世ノ注目ヲ惹ケルハ須賀川白河地方ノ石材大沼双葉ノ陶磁各原料信夫ノ白土石城ノセメント原料及耐火粘土時局以來硅素鐵製煉ニ用フル硅石等數種ニ過キサレナリ
今最近ニ於ケル土石類ノ年産額ヲ示セハ左ノ如シ

年次	石類	土類	計額	備考
明治四十四年	二四、一四〇	一四、八三二	三八、九七二	
大正元年	一七、六六八	一四、〇八六	三一、七五四	
同二年	二二、〇八三	一三、五二四	三五、六〇七	
同三年	二六、二八三	三〇、一三一	五六、三九四	
同四年	二二、二七八	六四、〇一六	八六、二九四	
平均	一六、四九〇	二七、三三六	四三、八二六	統計様式改正ノ爲メ石材雜類ニ分ル

即チ年ニ依リ高低アルモ平均産額約二十二萬圓ニ達ス大正四年ノ産額ニ就キ之ヲ各種別ニ示セハ左ノ如シ
(大正三年前ハ統計書ニ區分ナシ)

種類	産額	主産地	種類	産額	主産地
花崗岩	一一三、七三〇	双葉、東白川	安山岩	一、六八五	田村
大理石	三〇〇	伊達	砂岩	六、五八四	北會津
凝灰岩	三六、二一九	岩瀬	其他ノ岩石	五四、七六〇	石川其他
陶磁器原料	二一、〇一〇	双葉、大沼	耐火粘土	七、九六五	石城
砥石	三、二二四	南會津	磨石	一〇、八九二	信夫
石灰	四、四九一	石城	硅石	二〇〇	相馬
其他有用土石	六、三八二	相馬、耶麻	セメント原料	九、七九二	石城

第二章 方針並施設方法

鑛山ニ就テハ特別機關タル鑛務署ニ於テ之ヲ監督シ其ノ施設ニ關シテモ相當力ヲ致シ助長ニ努ムルト主要ナル鑛業主ハ東京阪神其ノ他概ネ縣外ニ屬シ然ラサルモノモ資金其ノ他ノ關係上主鑛業者ノ庇護助力ニ待ツモノ多ク從テ金融販賣等亦其ノ系統ニ依ラサルモノ稀ナルノ狀況ナリトス故ニ地方廳トシテハ之レカ助長ニ資益シ得ヘキ範圍甚タ少キカ如シト雖地方公安上ノ問題労働者問題交通運輸ノ機關其ノ他物資供給ニ關スル施設等直接間接ノ關係アルモノ尠カラス殊ニ新企業ニ際シテハ往々排他ノ思想ニ驅ラレ地方ノ利益増進ヲ顧ミス種々ノ口實ヲ設ケテ過大ノ要求ヲ爲シ企業者ヲシテ躊躇セシメ事業ノ發展ヲ阻止スルコト稀ナラサルニ依リ健全ナル企業者ハ出來得ル限り之ヲ歡迎シ以上ノ諸點ニ關スル調節改善ヲ圖リ以テ大ニ其ノ發展ヲ期セサルヘカラス又有用土石類ニ於テハ其ノ種類分量共ニ少カラス分布ノ範圍亦極メテ廣大ナルモ其ノ探究普カラサルト是ニ關スル知識少ク或ハ其ノ用途ヲ知りテ其ノ物ヲ知ラサル或ハ其ノ物ヲ知りテ其ノ用途ヲ知ラサル或ハ未タ其ノ所在ヲ知ラサルモノ若クハ共ニ之ヲ知ルモ資金ノ關係又ハ交通機關不備ノ爲メ之ヲ利用シ得サルモノ等少カラサル狀況ニシテ今後發展ノ餘地甚タ多キヲ以テ將來ハ之ニ對スル相當施設ヲ講シ斯業ノ發展ヲ圖ラムト欲ス

第一節 方針

一、健全ナル鑛業ノ發達並ニ有用土石類ノ利用ヲ圖ルコト

第二節 施設方法

- (一)
- (二)
- (三)
- (四)
- (五)

鑛業技術者ヲ設置スルコト
 鑛業ト他ノ産業トノ調節ヲ圖リ可成其企業ヲ容易ナラシムヘク便宜ヲ與フルコト
 縣鑛業會ヲ設立セシムルコト
 有用土石類ノ調査ヲ爲シ之カ開發ヲ圖ルコト
 有用土石類ヲ原料トスル工業ヲ助成スルコト

第三章 將來ノ生産

石炭ハ鑛産物ノ約七割ヲ占メ大正四年ニ於テ四百六十萬圓ヲ産シ本縣鑛産物中ノ大宗タリ其品質ハ九州炭北海道炭ノ優良品ニ及ハスト雖大消費地タル京濱ニ接シ交通上優位ヲ占ムルト其ノ分量ノ豊富ナルトニ於テ前途最モ有望ナルモノアリ從來市價並ニ資金ノ關係上採掘ヲ見ルニ至ラサリシ鑛區モ時局以來資金潤澤市價暴騰ノ結果新タニ採掘ヲ始メタルモノ多キカ爲メ最近ノ産額ハ詳知シ難キモ大ニ増額シタルハ疑ナキ處ニシテ平和克復後一時多少ノ頓挫ヲ見ルハ或ハ之アラムモ大勢ニ於テ益々増進スヘキハ明ナリトス
 金屬鑛物ニ就テハ科學ノ進歩ニ依リ貧鑛難鑛ノ處理ヲ有利ナラシムルハ勿論交通機關ノ發達資金ノ潤澤市價ノ騰貴等有利ノ條件ニ富ムヲ以テ今後益々發展スヘク殊ニ本縣ニハ鑛區探檢ノ餘地尙頗ル多キト日立鑛山ニ近ク賣鑛ニ依リ小資本ヲ以テ稼行シ得ルノ便益ヲ有スル等最モ有利ノ地位ニ在ルヲ以テ今後十ヶ年間ニ於テ産額ノ増進ヲ蓋シ顯著ナルモノアラム其他硫黃ニ於テモ頗ル豊富ニシテ時局以來新タニ採掘ヲ始メタルモ

ノ尠カラス將來時價ニ暴落ナキ限リ逐次産額ノ増進スヘキヤ明カナリトス叙上ノ如ク本縣鑛産物ノ前途ハ益々有望ニシテ殆ント豫測シ難キモノアリ而シテ最近時局ニ依リテ促進セラレタルモノハ時局終局後或ハ衰退ヲ來スヤノ虞ナキニアラサルモ日露戦争後勃興シタル各種鑛業ノ其ノ後逐次累進シタル實例ニ徴スレハ敢テ悲觀ヲ要セサルモノ、如シ今三十八年後十ケ年間ニ於ケル事實ニ就キ之ヲ豫想スレハ今後十年後ノ産額ハ現在ニ三倍シテ即チ約二千萬圓ニ達スヘキヤ疑ナケム

第二節 土 石 類

都市ノ建築ハ逐次石材ヲ用フルコト多キニ至ルヲ以テ是等土石類ノ需用ハ益々増加スヘク從テ阿武隈高原ヲ構成スル主岩石タル花崗片麻岩等ハ最モ移出ノ前途ヲ有シ凝灰岩ハ目下須賀川白河附近ヨリ移出スルニ過キサルモ是レ亦所在良質ノモノ少カラサルヲ以テ其ノ産額増進ノ餘地ニ富ムト謂フヘクカーバイト、セメント事業及肥料トシテノ石灰岩ノ用途近時化學工業ノ勃興ニ伴フ耐火煉瓦原料又ハ硅素鐵ノ製煉硝子製造ニ用フル硅石類陶磁器原料等何レモ將來著シク増加スヘキ事情アルノミナラス探檢ヲ進ムルニ於テハ石膏石綿蠟石ノ如キ有用土石類ノ發見モ亦少カラサルヘク將來相當ノ指導獎勵ヲ爲サハ現産額ノ約三倍即チ六千萬圓ニ達セシムルハ敢テ難事ニアラサルヘシ

ノ尠カラス將來時價ニ暴落ナキ限リ逐次産額ノ増進スヘキヤ明カナリトス叙上ノ如ク本縣鑛産物ノ前途ハ益々有望ニシテ殆ント豫測シ難キモノアリ而シテ最近時局ニ依リテ促進セラレタルモノハ時局終局後或ハ衰退ヲ來スヤノ虞ナキニアラサルモ日露戰爭後勃興シタル各種鑛業ノ其ノ後逐次累進シタル實例ニ徴スレハ敢テ悲觀ヲ要セサルモノ、如シ今三十八年後十ケ年間ニ於ケル事實ニ就キ之ヲ豫想スレハ今後十年後ノ産額ハ現在ニ三倍シテ即チ約二千萬圓ニ達スヘキヤ疑ナケム

第二節 土 石 類

都市ノ建築ハ逐次石材ヲ用フルコト多キニ至ルヲ以テ是等土石額ノ需用ハ益々増加スヘク從テ阿武隈高原ヲ構成スル主岩石タル花崗片麻岩等ハ最モ移出ノ前途ヲ有シ凝灰岩ハ目下須賀川白河附近ヨリ移出スルニ過キサルモ是レ亦所在良質ノモノ少カラサルヲ以テ其ノ産額増進ノ餘地ニ富ムト謂フヘクカーバイト、セメント事業及肥料トシテノ石灰岩ノ用途近時化學工業ノ勃興ニ伴フ耐火煉瓦原料又ハ硅素鐵ノ製煉硝子製造ニ用フル硅石類陶磁器原料等何レモ將來著シク増加スヘキ事情アルノミナラス探檢ヲ進ムルニ於テハ石膏石綿蠟石ノ如キ有用土石類ノ發見モ亦少カラサルヘク將來相當ノ指導獎勵ヲ爲サハ現産額ノ約三倍即チ六十萬圓ニ達セシムルハ敢テ難事ニアラサルヘシ

第八部 雜

第八部 雜

第一章 氣象

第一章 氣象ノ大要

本縣ノ地勢ハ西、中央主山脈ヲ以テ越後ト境シ東ハ陸羽山脈東西二派ニ分レ一ハ縣ノ東部ヲ一ハ縣ノ中央ヲ南走ス四境山嶽重疊シ且ツ分岐セル數個ノ山脈蜿蜒起伏シテ平野ヲ見ルコト少ナク唯僅カニ太平洋沿岸即チ相馬、石城地方及ヒ阿武隈川沿岸ノ地並ニ會津ノ盆地等僅カナル平野ヲ見ルノミ故ニ縣内氣候ノ狀態モ頗ル複雑ニシテ各地一樣ナラサルモ山脈走向ノ關係上自然的ニ三大區ニ區分セラレルノ傾アリ即チ東部太平洋沿岸ノ地ハ海洋的氣候ヲ示シ寒暑共ニ溫和ニシテ冬季ト雖モ降雪稀ニ積雪ヲ見ルコト極メテ少ナシ而テ中部阿武隈川沿岸ノ地ニ至レハ内陸的氣候ヲ呈シ寒暑共ニ東部ニ比シ激烈ニシテ積雪モ亦多キヲ加フ更ニ西部會津地方ニ至レハ寒暑殊ニ甚タシク冬季ハ亞細亞大陸ノ影響ヲ蒙リ北西ノ信風常ニ強烈ナリ加フルニ日本海ヲ洗フ濕潤ナル空氣ハ越後ノ國境ナル高峯峻嶺ニ衝突シ其含有スル水蒸氣ヲ凝結セシメ降雪霏々トシテ連日ニ涉ルヲ常トス爲メニ積雪丈餘ニシ達シ人馬ノ交通杜絶スルコト稀ナラス然レトモ中部地方ニ至レハ高嶺所々ニ連互セルヲ以テ信風ノ吹走ヲ遮斷シ漸ク其餘波ヲ受クルニ止マルヲ以テ降雪モ從ツテ多カラス更ニ東部地

方ニ至レハ全ク該信風ノ影響ヲ蒙ラサルモノノ如シ年ノ平均氣温ハ攝氏十一度七分ニシテ宇都宮、新潟ニ比較スレハ一度餘ノ低度ヲ示シ宮古、山形、石巻ニ比スレハ一度餘ノ高度ヲ示セリ今之ヲ四季ニ區別シテ論スレハ冬季ハ平均温度攝氏ノ一度五分ニシテ降水量ハ百六十耗ヲ降ラス風速度ハ季節風ノ盛ナル時期ナルヲ以テ暴風日數二十日以上ニ達セリ春季ニ至レハ温度漸ク上昇シテ平均攝氏ノ九度七分ニ昇リ從テ降水量モ増加シ二百六十四耗一ヲ示セリ而シテ當季節ハ氣壓ノ變遷最モ盛ナル時節ナルヲ以テ風速度モ強ク全年中主位ニ在リ即チ暴風日數モ二十三日ノ多キヲ算セリ夏季ニ至レハ平均温度ハ二十一度九分ヲ示シ全年中ノ温度ノ最高度ヲ示ス而シテ酷暑ノ年柄ニ因リテハ最高攝氏ノ三十六度六分ニ達スルコトアリ然リト雖氣候ノ不順ナル年ニハ之ノ三伏ノ候モ冷涼ニ過キ漸ク攝氏ノ二十度内外ニ止マルコトアリ之レ初夏ニ於テオホツク海附近ニアリシ高氣壓ノ依然滯留シテ南下スルコトナク爲メニ北東風卓越シテ吹走シ東北地方沿岸ヲ流走スル寒流ノ勢ヲ益々旺盛ナラシメ多量ノ濕氣ヲ齎シ陰曇ナル天氣ヲ持續シテ氣温ノ上昇ヲ妨クルニ由ルモノトス是レ全年中最モ降水量ノ夥多ナル時期ニシテ四百六十一耗ニ示シ而カモ南洋諸島ニ發生スル颱風ノ襲來スルコト頻繁ニシテ其最モ深厚ナルモノニ遇ヘハ濛雨沛然トシテ二十四時間内二百六十四耗五ノ多量ナル降水ヲ見ルコトアリ然レトモ暴風ハ極メテ少ナク風速度ノ最モ微弱ナル時期ナリトス秋季ノ平均温度ハ攝氏ノ十三度七分ニシテ漸ク冷涼ノ時節トナリ十月ニ至レハ氣温ノ降下極メテ急ニシテ攝氏一、二度ニ下リ薄霜屋上ヲ白カラシムルヲ見ル而シテ十一月ニ至レハ氣温ハ氷點以下ニ下リ結氷スルニ至ル降水ハ夏季ニ次キ多量ナル

時期ニシテ三百六十九耗六ヲ示シ風速度モ漸ク強ク暴風日數モ九日ニ増加ス
 今左ニ明治二十三年ヨリ大正五年ニ至ル廿七ケ年間ニ於ケル觀測成績ニ基キ計算セル累年平均ノ氣温、降水、日照、濕度、暴風、結霜日數等ヲ擧ケ以テ參考ニ資セントス

月次	項目		氣		降		水		暴		風		日		結	
	平均	最高	最低	總量	日數	日照	濕度	強風	烈風	風	日	風	日	結霜		
一	0.6	4.8	3.5	51.3	14	116.7	74	6	1	1	1	1	1	1	1	1
二	0.9	5.5	3.3	53.3	13	117.3	72	5	1	1	1	1	1	1	1	1
三	3.9	9.0	0.6	74.1	13	170.8	69	7	1	1	1	1	1	1	1	1
四	10.3	16.5	4.6	84.8	13	176.5	67	7	1	1	1	1	1	1	1	1
五	15.0	21.4	9.1	105.1	12	189.3	69	5	1	1	1	1	1	1	1	1
六	19.3	24.9	14.7	134.7	11	150.5	76	2	1	1	1	1	1	1	1	1
七	23.6	27.6	18.8	158.3	7	128.9	81	1	1	1	1	1	1	1	1	1
八	23.9	29.3	20.7	168.2	6	151.2	83	1	1	1	1	1	1	1	1	1
九	19.9	25.0	16.3	193.1	6	133.7	84	1	1	1	1	1	1	1	1	1
十	13.4	19.2	8.7	144.6	3	119.7	82	3	1	1	1	1	1	1	1	1
十一	7.9	13.7	2.7	61.9	1	122.9	75	5	1	1	1	1	1	1	1	1
十二	3.1	7.5	0.1	56.3	1	104.7	75	6	1	1	1	1	1	1	1	1
年	11.7	17.0	7.3	1155.8	17	1410.0	75	8	8	8	8	8	8	8	8	8

備考
 氣温ハ攝氏ノ度、降水量ハ耗、日照ハ時、濕度ハ百分率ニ依リ%ヲ單位トス

要スルニ本縣ノ氣候ハ東部、中部、西部ニ分レ各々其狀態ヲ異ニシ彼ノ明治三十五年、同三十八年、大正二年ノ如キ氣候不順ニシテ稻作不良ヲ來セシ年柄ヲ見ルニ各部共其影響ヲ異ニシ厚薄アリ即チ明治三十五年、同三十八年ノ如キ寒流ニ基ク冷氣ハ氣壓ノ配置北太平洋ニ高ク滯留數旬ニ涉リ爲メニ北東風卓越シテ寒流面ヲ洗ヒタル濕潤ナル空氣ハ陸羽山脈ノ東側ニ水蒸氣ヲ凝結セシメ陰曇ナル天候ハ八月盛夏ノ時期ヲシテ冷涼ニ經過セシメタルニ原因ス而シテ其被害タルヤ東部及中部ノ北半最モ甚ク西部地方ニ至ルニ從ヒ被害極メテ少ナシ之レ縣内ニ起伏セル幾多ノ山脈カ一ノ障壁ヲ爲シ北東ノ濕潤ナル空氣ヲ防遏セシニ由ル故ニ本縣ノ産業振興ニ付テハ最モ氣候ノ調査ニ重キヲ置キ之レヲ基礎トシテ各種ノ施設ヲ爲スノ最モ必要ナルヲ認ム一例ヲ舉クレハ晩春晩霜ノ酷烈ナル場合ニハ一朝ニシテ數萬町歩ノ桑園ヲ烏有ニ歸セシムルカ如キ獨リ本縣ノミナラス長野、群馬、栃木等同一ナルモ本縣ニ於ケル養蠶業ハ全國ノ首位ニ居リ其結果ノ良否ハ特ニ以テ縣民ノ休戚ニ關スルコト頗ル大ナルモノアレハナリ其他水産業各種工業等何レモ天候ニ俟ツモノ多シ故ニ氣候ノ關係ハ産業振興上最モ注意ヲ要スヘキ事項ナリトス

第二章 氣象觀測ノ現況

本縣ノ氣象觀測ハ信夫郡渡利村ノ測候所ニ於テ一日六回氣象要素ノ觀測ヲ施行シ又石城郡小名濱町ニ出張所ヲ置キ毎日三回ノ觀測ヲ爲シ専ラ漁業上ニ關スル調査ヲ行フノ外管内十九ヶ所ニ氣象觀測所ヲ置キ一日一回ノ觀測ヲ爲シ管内全般ノ氣候ヲ調査ス而シテ地方天氣豫報地方暴風警報ヲ發スルノ外必要ニ應シテ臨時豫報ヲモ發セリ又農商務省田島森林測候所ト連絡シテ相互觀測成績ノ交換ヲ爲スノ外豪雨ノ場合ニハ森林測候所ヨリ雨量電報ヲ發セシメ又本所ヨリハ三月一日ヨリ十一月三十一日迄地方天氣豫報ヲ該所ニ發シ所在地ニ於ケル一般營業者ノ便宜ヲ圖リ而シテ春蠶期中養蠶ノ盛ナル地方管内九十三ヶ所ニ一ヶ所五十日間ツ、通報ヲ爲シ營業者ノ便宜ヲ計リ又ハ濱通十一ヶ所ニ地方暴風信號柱ヲ設置シテ暴風ノ襲來ヲ豫告シ漁業上ノ便宜ニ資セリ

第三章 方針及施設方法

現在本縣ノ氣象觀測ハ測候所、同出張所及農商務省森林測候所、專賣局觀測所、内務省雨量觀測所ヲ主ナルモノトシ其ノ他ノ觀測所ヲ併セテ二十八ヶ所ニ過キス之ヲ管内ノ廣袤殊ニ山岳起伏ノ關係上氣候ノ差異著シキ點ヨリ見ルトキハ到底精細ナル調査ヲ得テ應用資料ヲ充分ナラシムルコト能ハス又一般ニ使用セラル、寒暖計ノ如キモ檢定ノ必要アルハ勿論ニシテ殊ニ暴風警報ニ至リテハ其必要最モ大ナルモノナレハ是等ニ對シテ相當ノ方法ヲ講シ氣象應用ノ安全ヲ期セント欲ス

第一節 方針

- 一、氣象觀測所ヲ増設スルコト
- 二、寒暖計ノ依賴檢定ヲ行フコト
- 三、暴風警報ノ周知ヲ圖ルコト

第二節 施設方法

- (一) 管内相當ノ地ニ氣象觀測所ヲ新設スルコト
- (二) 一般ノ依頼ニ應ジ寒暖計ノ檢定ヲ行ヒ計器ノ正確ヲ期スルコト
- (三) 私立信號柱ヲ可成多ク設立セシメ通報料ヲ縣ニ於テ負擔スルコト
- (四) 講習講話等ノ方法ニ依リ暴風襲來ノ原理ヲ知ラシムルコト

第二 動力

動力ノ必要ナルハ多言ヲ要セス而シテ近時社會ノ進運ニ伴フ生産ニ關スル器具機械ノ發達著シク爲メニ動力ノ利益々加ハルニ從ヒ動力ハ工業勃興上離ルヘカラサルノ趨勢ヲ示セリ然ルニ本縣ハ到ル所ニ電力會社ノ設立ヲ見尙ホ將來新ニ水力電氣ヲ起シ得ヘキノ餘地甚タ多シ是ノ意味ニ於テ本縣ノ如キハ實ニ天惠ノ地ト謂ハサルヘカラス

第一章 動力ノ現況

本縣ノ動力ハ之ヲ分テテ四種ト爲スコトヲ得水力、瓦斯、電力、汽機力是レナリ内電力最モ多キヲ占メ實ニ二萬キロワットニ達セントシ水力之レニ次キ汽機力又之レニ次ク而シテ瓦斯動力ハ最モ少シ今最近ノ調査ニ係ル本縣電氣會社並ニ其ノ動力數及其ノ他ノ動力ヲ舉クレハ次ノ如シ

電力ノ事業者別

名 稱	所 在 地	事業開始年月	電燈燭光數	電動機馬力數	其他ノ電力「キロワット」數
福嶋電燈株式會社	福嶋市	明治廿八年十一月	一四二、五八八	二四九	八七二
會津電力株式會社	若松市	同 三十五年一月	一八一、九二五	二二二	八六
奥羽電氣株式會社	伊達郡保原町	同 四十三年七月	四九、三二七	六九三	四三五
川俣電氣株式會社	同 川俣町	同 四十一年十一月	四五、五六八	一九二	
二本松電氣株式會社	安達郡二本松町	同 四十一年四月	三二、〇三一	一〇八	
本宮電氣株式會社	同 本宮町	同 四十四年七月	三一、一五三	一二二	
郡山電氣株式會社	安積郡郡山町	同 三十二年六月	七四、七七二	四五八	四九八
須賀川町營電氣	岩瀬郡須賀川町	同 三十九年四月	五一、九〇一	一五五	
大沼電燈株式會社	大沼郡高田町	大正元年十一月	一六、二一九	五四	
榑合電氣株式會社	東白川郡榑倉町	同 三年三月	一五、四九八	二三	
三春電氣株式會社	田村郡三春町	明治四十二年二月	二一、九六五	七八	
白河電燈株式會社	同 白河郡白河町	同 四十二年十月	五一、三七八	三〇	
中村電氣株式會社	相馬郡中村町	同 四十四年四月	二一、二二五	五八	
相馬電氣株式會社	同 原ノ町	同 四十三年七月	二一、三〇五	八四	
磐城水電株式會社	同 小高町	同 四十四年十一月	二八、二一〇	一一一	
常葉電氣株式會社	田村市常葉町	大正二年十一月	八、二一八		
四ツ倉電氣株式會社	石城郡四ツ倉町	同 五年六月	一七、四六一	五	
猪苗代水力電氣株式會社	河沼郡日橋村	同 三年十一月			一四、〇一〇
日立鐵山(久原房之助)	石城郡大浦村	同 五年十二月			

小名濱電燈株式會社	同 郡小名濱町	同 四年九月	一四、九九八	一	一
田嶋水力電氣株式會社	南會津郡田嶋町	同 五年八月	六、八〇〇	一	一
八田電燈所	河沼郡日橋村	同 五年八月			
野澤電氣株式會社	同 野澤町	同 六年五月			
夏井川水電株式會社	石城郡 平町	明治四十四年一月	五九、五三九	四	一
植田電燈株式會社	同 郡鮫川村	未開業			

三五四

尙自家用電力ヲ舉クレハ左ノ如シ

名 稱	所 在 地	使用認可ノ日	發電所數	「キロワット」數	最大電 壓
加納鐵山株式會社	耶麻郡加納町	明治三十九年七月	—	—	—
好間炭礦古河合名會社	石城郡好間村	同 四十年八月	—	—	—
入山探炭株式會社	同 内郷村	同 四十一年六月	—	—	—
双松製糸工場	安達郡二本松町	同 四十二年三月	—	—	—
日本化學工業株式會社	河沼郡日橋村	大正四年二月	—	—	—
大平兵助	石城郡窪田村	同 五年八月	—	—	—

尙各動力ノ種別ヲ舉クハ左ノ如シ
動 力 (大正四年現在)

種 別	發電所數又ハ機關數	馬 力	種 別	發電所數又ハ機關數	馬 力
電 力	二六	二四、三二二	汽 車	四四	四、八三八
水 力	四四	一、八〇九	機 關	六四	—
汽 車	—	—	合 計	—	—
機 關	—	—	瓦 斯 發 動 機	—	—
				七	二〇
					三〇、九八カ

備 考

電力二萬四千三百二十二馬力中現在實際ニ使用セラレツ、アル動力ハ二千六百六十七馬力ナリ

今本縣統計ノ工場表ニ依リテ之ヲ觀ルニ明治三十四年ニ於テハ工場數七十一ニシテ動力ハ僅カニ三百十七馬力ニ過キナリシカ五ヶ年ノ後即チ明治三十九年ニハ工場數百二十二ヲ算シ動力モ千八百二十三馬力ノ多キヲ示シ更ニ大正四年ノ統計ニ於テハ著シク増加シ電力、水力、汽機力、瓦斯ノ合計實ニ九千三百三十四馬力(使用實馬力)ニ達シ之ヲ十五年前ニ比較スルトキハ洵ニ隔世ノ感ナクンハアラス

水力電氣ノ組織ハ多クハ株式ナリト雖公共團體經營ニ移レルモノ一アリ又近時他ノ會社ト合併シテ益々其ノ組織ヲ擴大スルモノ續出スルノ傾向ヲ呈セリ

次ニ料金ニ就テ述ヘンニ本縣電力ニ關スル料金ハ左表ニ示スカ如ク比較的高價ナラスト雖モ尙ホ將來一層低廉ナラシムルノ餘地ナシトセス

電氣供給料金

三五五

區別	水電		火力		水電		火力	
	大正三年	大正五年	大正三年	大正五年	大正三年	大正五年	大正三年	大正五年
福嶋	六二	六二	七〇	七〇	五、三一	五、二七	八、〇〇	八、〇〇
山形	六三	五九	七〇	六八	六、二七	五、三一	八、〇〇	八、〇〇
宮城	五九	五四	七〇	六九	五、三三	五、四三	八、〇〇	八、〇〇
秋田	六九	六四	七〇	七〇	五、〇〇	五、〇〇	八、〇〇	八、〇〇
岩手	六一	五九	七〇	七〇	五、〇〇	五、〇〇	八、〇〇	八、〇〇
青森	七四	七一	七〇	七〇	五、〇〇	五、〇〇	八、〇〇	八、〇〇
六縣平均	六五	六二	七三	六九	五、二九	五、二七	八、三三	八、〇〇
全國平均	六五	六二	七三	六九	六、二五	六、五九	一〇、三一	一〇、三五

本表ハ特ニ電燈ノ料金ヲモ掲載シテ參考ニ資セリ
 大正五年十月遞信省電氣局長ノ調査ニ依レハ東北六縣ニ於ケル水力電氣ニ關スル地點並ニ馬力數左ノ如シ
 元水力調査局撰定水力地點

縣名	河川數	地點數	馬力數	縣名	河川數	地點數	馬力數
福嶋	五三	內	九七 (二九六、七〇六)	秋田	三七	內	七〇 (一、〇〇〇)
山形	三〇	內	五〇 (七二、四六八)	宮城	四九	內	一一〇 (一四九、六五六)
青森	二一	內	四五 (五九、九〇一)	岩手	四九	內	一〇五 (八、九八六)
宮城	一六	內	三三 (三、四一六)	計	二〇六	內	四〇五 (六七〇、七九四)

備考

即チ東北六縣中本縣ハ最モ多クノ水力ニ富ミ六縣合計六十七萬餘馬力中實ニ四割四分二厘ヲ占メ二十九萬六千餘馬力ニ達ス然レトモ尙民間ニ於テ調査ヲ遂ケ出願シタルモノヲ合算スルトキハ五十八萬七千五百馬力ニシテ實ニ全國第一ニ位ス而シテ内許可ヲ受タルモノハ僅力ニ十八萬四千三十九馬力即チ總馬力ノ三割一分ニ過キササルナリ尙本同局長調査ニ係ル既許可電力ニ關スル統計ヲ掲ケテ參考ニ供セム (大正六年三月現在)

既許可水力地點

縣名	河川數	地點數	馬力數	使用中ノ馬力	合計馬力
福嶋	二五	四六	二三四、七三〇	(六)地點 八二、七三〇	五〇八、二一五
山形	一二	一三	八、七七二	(二) 七、四一三	七六、七九三
青森	六	八	八、五六七	(五) 二、九〇七	六五、〇五二
宮城	一五	二二	二二、三二八	(九) 一〇、八四七	五三、九〇〇
秋田	二〇	二五	二五、六二〇	(二二) 三四、三四七	八三、四〇六
岩手	一九	一九	一六、四四七	(一〇) 四、七三六	一五七、一一八
計	九七	一三三	三二七、四六四	(八三) 一三二、九八〇	九四四、四八四

備考

合計馬力ニ於テ符合セサルハ電氣局ノ調査セサル地點ニシテ既許可ノモノアルヲ以テナリ
 斯ノ如ク本縣ノ水ハ之ヲ東北ニ於ケル他ノ各縣ニ比較スルトキハ現在ニ於テ既ニ首位ヲ占ム

第二章 方針並ニ施設方法

抑モ動力ハ生産ノ進展ニ伴フ之レカ利用ノ必要上發達シタルニ外ナラスト雖モ最近經濟ノ進步ハ却テ其ノ位
置ヲ轉倒シ動力ノ存セサル所ニ生産就中工業ノ發達ヲ見サルカ如キ觀ヲ呈スルニ至レリ然ルニ本縣ノ動力中
水力電氣ノ如キハ實ニ天惠ノ地ノ利ヲ享ケ今後尙發展ノ餘地甚タ廣大ナルモノアリ然レトモ觀ツテ本縣ノ
諸工業ヲ見ルニ之レカ改善發達ハ實ニ喫緊ノ急務ニシテ而カモ其ノ改善發達ニ關シテハ必スヤ動力ノ發達ニ
俟タサルヘカラサルモノ多シ故ニ産業ノ發展ト相馳駢シテ其ノ發達ヲ促進セシムルハ是レ實ニ刻下ノ急務ニ
シテ換言スレハ益々此ノ天與ノ水力ヲ利用シテ動力ノ發達ヲ促シ低廉ナル動力ヲ使用セシメ以テ産業ノ勃興
殊ニ電氣分解等化學工業ノ發展ニ資セサルヘカラス斯業ニ關シテハ既ニ政府ニ相當ノ施設アリ且ツ從來本縣
ニ於ケル電力ハ順調ノ發達ヲ遂ケツ、アリト雖尙時宜ニ依リ動力ニ對スル觀念ノ向上並ニ其ノ促進ニ關シテ
ハ適切ナル處置ヲ執ラント欲ス

第一節 方針

- 一、動力ノ發達ヲ促進セシムルコト
- 二、低廉ナル動力ノ供給ヲ圖ルコト

第二節 施設方法

- (一) 專務技術者及職員ヲ設置スルコト
- (二) 電力會社ノ合併ヲ勸奨シ以テ電力ノ増進ト供給料金ノ低下トヲ期スルコト

(附錄)

發電所水力地點

水系	河川名	取入口	水量	落差	馬力數
阿武隈川	鳥川	伊達郡茂庭村梨平一ノ樋	三六	一五五	六二七
同	同	同 郡同 村壹刈場	三〇	七六	二五五
同	中野川	信夫郡中野村中野、田部	一八	一八八	三八〇
同	松川	同 郡庭坂村庭坂、生産ヶ澤	六二	七三五	五、一二二
同	同	同 郡水原村柔木澤	六	一四〇	九四
同	鹽ノ川	同 郡土湯村女沼頭	一六	三二八	五九〇
同	五百川	安積郡丸守村安子ヶ嶋瀧ノ下	二一六	二三一	五、六二〇
同	同	同 郡同 村同 竹ノ内	二一九	一九九	四、九二三
同	石鐘川	安達郡高川村高玉、雜耕地	二一	一一〇	二六〇
同	阿武隈川	伊達郡飯野村新橋	一、三三九	九二	一三、八四六
同	同	同 郡 同村舟場	一、二八二	五七	八、二一四
同	同	安達郡上川崎村日出田	一、〇〇八	三五	三、九六六
同	同	石川郡野木澤村中野、新田	三〇九	三〇	一、〇四二
同	同	四白河郡四郷村鶴生、追分原	四五	六三	三一九
同	同	岩瀨郡濱田村前田川、深田	一五五	二四	四一八
同	同	安達郡二本松町霞ノ一	三三	七〇	二五
同	谷田川	田村郡谷田川村栃本赤目立	二五	一〇五	二九五

二、水量ノ單位ノ個ハ每秒立方尺ナリ

三六六

第三 金 融

抑々金融機關ハ商業ト工業ト農業トヲ問ハス其ノ向上發達ニ至大ノ關係ヲ有スルハ敢テ言フ俟タス故ニ斯業ノ興類ハ實ニ産業ノ振否ヲ支配スト云フモ過言ニ非ルヘシ然ルニ普通銀行ト謂ヘハ多クハ商業家ノ獨占ニ歸スルモノノ如ク農工業家ニ在リテハ之レヲ利用スルモノ稀ナルノ觀アリサレハ本縣金融機關ノ如キ各地ニ其ノ設置尠ナカラスト雖モ過半ハ小規模ノ商事銀行ナリ然リト雖世ノ進運ニ伴ヒ農業ノ如キモ益々資金ヲ要スルニ至リ特ニ工業資金ノ如キハ全ク急ヲ告クルノ狀況ニ在リ故ニ農工業家ノ利用スヘキ專屬機關ノ設備ニ關シテハ今後最モ意ヲ注カサルヘカサルト同時ニ一般當業者ニ於テモ將來ハ一層之レカ利用上ニ工夫スル所ナカルヘカラス

第一章 現 況

第一節 農工業金融機關

現今農工業金融機關トシテハ中央ニ株式會社日本勸業銀行及同日本興業銀行アリ又縣内ニハ株式會社福島縣農工銀行アリ農工銀行ハ自己ノ資金ノ外日本勸業銀行ノ代理貸付ヲ爲シ何レモ不動産ヲ擔保トシテ農工業家ニ低利資金ヲ融通シ其ノ發達ヲ助長シ改善ヲ促シツ、アリト雖モ而カモ是等ノ機關ヲ利用スルモノハ多クハ

地方ノ資産家ニシテ多數ノ小地主及小規模ノ工業者ハ到底之ヲ利用スル能ハスシテ却テ短期ニシテ高利ナル負債ニ苦ミツツアルノ實況ナリ元來農工業ノ資本ハ商業資金ニ比シ長期ニシテ且ツ固定スルノ狀態ナルヲ以テ努メテ其ノ利率ヲ低歩ニスヘク或ハ年賦償還ノ方法等ニ據ルヲ便トスルハ今更言フ俟タス然ルニ現在ノ事實ハ之ニ反シ農業ノ利潤ハ極メテ薄利ナルニ拘ハラヌ目下地方一般農民ノ融通利率ハ年一割二分乃至二割ノ間ニ在リサレハ今日ノ如ク一面ニ多額ノ負債ニ苦ミツ、アル多數ノ農工業者ハ到底其ノ窮境ヨリ脱出スル能ハサルヤ知ルヘキノミ加フルニ農工勸業兩銀行ノ如キハ資金ニ制限アリ或ハ債券ヲ發行シテ其ノ急ニ應シ得ルノ餘力ナキニアラサルモ尙今日ノ地方農村ノ窮狀ヲ救済スルカ如キハ容易ノ事業ニアラサルナリ是ニ於テカ或ハ農村銀行設立ノ急務ヲ論スルモノアリ或ハ其ノ他ノ不動産貸付銀行ノ必要ヲ絶叫スルモノアリト雖モ今日ノ如ク疲弊セル農村及小工業家ニ於テハ果シテ是等ノ機關ヲ利用シ得ヘキヤ否ヤ頗ル疑問トセサルヲ得ス若シ夫レ是等機關ノ中間ニ介在シテ農工民ノ運用最モ容易ニシテ且ツ適切ナルヲ求メンカ先ツ指ヲ産業組合(信用組合)ニ屈セサルヲ得ス今左ニ叙上各機關ノ現在如何ニ利用サレツツアルカヲ述ヘントス

一、福島縣農工銀行 明治三十年ノ設立ニシテ資本金八拾五萬圓ナリシカ其後二回ノ増資ヲ行ヒ貳百萬圓トナリ拂込株金百五拾萬圓加フルニ貳百餘萬圓ノ農工債券ヲ發行シ又各種ノ積立金約百萬圓ヲ有スルニ至レリ從テ基礎モ亦確實トナリ株主ニ對シテハ年一割ノ配當ヲ爲スノ營業狀態ナリ利率ハ貸出及回收ノ方法ニ依リ一定セサルモ普通年八分ニシテ耕地整理組合、産業組合、公共團體等ハ其金額ノ多少ニ依リテ差異アル

三六七

現在	同五年後	同四年後	同三年後	同二年後
一三、〇八四	五九八	一、四〇一	一、〇五二	九一六
五、〇三六、二一四	二六二、六六〇	五四九、六九〇	四九五、一九〇	四二五、三五〇
二〇〇	五六	一三〇	八三	一八八
二二三、六七八	四六、四〇〇	一二三、二〇〇	八七、七〇〇	三四一、四五〇
二、三七〇				
三、一二九、八四六	六六、三七五	二二、五〇〇	二二、七〇〇	四九八、一〇〇

三、農工債券發行高調

回数	發行年月	發行元高	償還高	差引	殘高
第一回	明治三十九年三月	一六〇、〇〇〇	一六〇、〇〇〇		五〇、〇〇〇
第二回	同 四十三年六月	二〇〇、〇〇〇	一五〇、〇〇〇		八五、〇〇〇
第三回	同 四十四年七月	一三〇、〇〇〇	四五、〇〇〇		三四七、〇〇〇
第四回	同 四十五年六月	五〇〇、〇〇〇	一五三、〇〇〇		一〇〇、〇〇〇
第五回	同 四十五年六月	一三〇、〇〇〇	三〇、〇〇〇		二一一、三〇〇
第六回	大正元年十月	二八〇、〇〇〇	六八、七〇〇		四九、〇〇〇
第七回	同 年十月	七〇、〇〇〇	二一、〇〇〇		一六〇、一〇〇
第八回	同 二年六月	二〇〇、〇〇〇	三九、九〇〇		二五八、五〇〇
第九回	同 三年四月	三〇〇、〇〇〇	四一、五〇〇		

回数	發行年月	發行元高	償還高	差引	殘高
第十回	同 年四月	八〇、〇〇〇	一三、〇〇〇		六七、〇〇〇
第十一回	同 年十一月	二〇〇、〇〇〇	四八、六〇〇		一五一、四〇〇
第十二回	同 年十一月	八〇、〇〇〇	二〇、〇〇〇		六〇、〇〇〇
第十三回	同 四年三月	三〇〇、〇〇〇	一九、八〇〇		二八〇、二〇〇
第十四回	同 六年六月	三〇〇、〇〇〇	八一〇、八〇〇		三〇〇、〇〇〇
計		二、九三〇、〇〇〇	八一〇、八〇〇		二、一一九、二〇〇

右表ニ依リテ觀ルトキハ貸付金ノ如キ相當ノ額ニ達シ農工業家ノ經濟上ニ貢獻スル所頗ル大ナルハ言ヲ俟タ
 スト雖小農工業者ノ經濟ハ年々歳々疲弊ヲ來シ特ニ農家經濟ノ不如意ハ實ニ驚クヘキ統計ヲ示シ大正二年ニ
 於ケル農家負債高ハ實ニ參千六百貳拾參萬餘圓一戸平均參百圓餘ニ達ス而カモ之レニ工業家ノ負債ヲ加フル
 トキハ實ニ莫大ナル額ニ達スヘク此ノ如キ狀況ナルヲ以テ叙上農工銀行貸付金ノ如キハ僅カニ其幾分ノ救済
 ニ充當セルニ過キササルヘシ從テ中小農工業者ノ現狀ヨリ之ヲ推セハ尙益々農工銀行ノ活動ヲ要スルヲ知ルニ
 難カラサルナリ況ンヤ他ノ商業金融機關タル普通銀行ニ比較シテ其ノ資金ノ不足ナル又貯蓄預金等ノ機關ノ
 不備ナル同日ノ論ニアラサルニ於テオヤ

- 二、日本興業銀行ヨリ借出シ利用セル資金ハ左ノ如シ
- 擔保付 三〇口 四〇三、七五〇圓
- 無擔保 十一口 三六六、八九二圓

擔保付ハ製糸業、電氣業者等ニシテ無擔保ハ多ク耕地整理組合ニ對スル融通ナリ

三、産業組合 産業組合ハ地方小産者ノ經濟機關トシテ自治相助ノ觀念ヲ向上セシメ一面民風ノ刷新ヲ期スルト同時ニ産業組織ノ改善ニ貢献スル機關タルヤ言フ俟タス而カモ本縣ノ産業組合ハ年々改善發達ノ域ニ向ヒツツアルハ洵ニ喜ハシキ現象ナリトス産業組合中購買販賣生産等ハ金融ヲ調和スルニ於テ効アリト雖モ金融機關トシテ信用組合ナルヲ以テ以下主トシテ信用組合ニ就テ述ヘントス

其ノ一 産業組合一覽表 (六ヶ年間)

項目	明治四十四年		大正元年		大正二年		大正三年		大正四年		大正五年	
	組合數	組合員數	組合數	組合員數	組合數	組合員數	組合數	組合員數	組合數	組合員數	組合數	組合員數
信用購買	105	3,750	105	3,750	105	3,750	105	3,750	105	3,750	105	3,750
信用販賣	10	1,100	10	1,100	10	1,100	10	1,100	10	1,100	10	1,100
生販賣	1	100	1	100	1	100	1	100	1	100	1	100
購買	1	100	1	100	1	100	1	100	1	100	1	100
計	126	5,050	126	5,050	126	5,050	126	5,050	126	5,050	126	5,050

其ノ二 産業組合組合員調 (大正四年)

項目	明治四十四年		大正元年		大正二年		大正三年		大正四年		大正五年	
	組合數	組合員數	組合數	組合員數	組合數	組合員數	組合數	組合員數	組合數	組合員數	組合數	組合員數
信用購買	105	3,750	105	3,750	105	3,750	105	3,750	105	3,750	105	3,750
信用販賣	10	1,100	10	1,100	10	1,100	10	1,100	10	1,100	10	1,100
生販賣	1	100	1	100	1	100	1	100	1	100	1	100
購買	1	100	1	100	1	100	1	100	1	100	1	100
計	126	5,050	126	5,050	126	5,050	126	5,050	126	5,050	126	5,050

項目	明治四十四年		大正元年		大正二年		大正三年		大正四年		大正五年	
	組合數	組合員數	組合數	組合員數	組合數	組合員數	組合數	組合員數	組合數	組合員數	組合數	組合員數
信用購買	105	3,750	105	3,750	105	3,750	105	3,750	105	3,750	105	3,750
信用販賣	10	1,100	10	1,100	10	1,100	10	1,100	10	1,100	10	1,100
生販賣	1	100	1	100	1	100	1	100	1	100	1	100
購買	1	100	1	100	1	100	1	100	1	100	1	100
計	126	5,050	126	5,050	126	5,050	126	5,050	126	5,050	126	5,050

備考

組合數三百三十(調査數)組合員數二萬六千九百三十五人、一組合平均員數八十二名弱

其ノ三 運轉資金調 (大正四年)

項目	明治四十四年		大正元年		大正二年		大正三年		大正四年		大正五年	
	組合數	組合員數	組合數	組合員數	組合數	組合員數	組合數	組合員數	組合數	組合員數	組合數	組合員數
信用購買	105	3,750	105	3,750	105	3,750	105	3,750	105	3,750	105	3,750
信用販賣	10	1,100	10	1,100	10	1,100	10	1,100	10	1,100	10	1,100
生販賣	1	100	1	100	1	100	1	100	1	100	1	100
購買	1	100	1	100	1	100	1	100	1	100	1	100
計	126	5,050	126	5,050	126	5,050	126	5,050	126	5,050	126	5,050

同	四年	七,九三三	六三三	一六,四八二	六,六九七	四九,八八〇	五四,七〇〇	三三,六四三	四,八六〇	六六,九六六	一七,六三三
---	----	-------	-----	--------	-------	--------	--------	--------	-------	--------	--------

其二 貸付金

年別	貸付金		當座預金		貸付金		當座預金		貸付金		當座預金	
	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低
明治四十三年	10,001	100	3,873	20	20,562	20	2,926	20	30,563	20	6,802	20
明治四十四年	20,199	100	4,192	20	33,074	20	3,336	20	35,772	20	7,448	20
大正元年	13,277	100	4,980	20	24,998	20	4,473	20	38,278	20	9,453	20
同二年	12,866	100	5,033	20	30,782	20	5,065	20	43,649	20	10,098	20
同三年	12,087	100	5,686	20	27,759	20	4,914	20	39,887	20	10,999	20
同四年	10,933	100	5,687	20	28,933	20	4,252	20	39,865	20	9,899	20

其三 爲替

年別	官公金		普通		計向		官公金		普通		計向	
	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低
明治四十三年	2,982	100	3,833	20	5,814	20	1,922	20	2,663	20	1,772	20
明治四十四年	1,577	100	3,263	20	4,840	20	2,623	20	1,856	20	2,199	20
大正元年	1,773	100	4,180	20	5,953	20	3,309	20	2,888	20	2,697	20
同二年	2,033	100	4,266	20	6,300	20	4,124	20	3,765	20	2,989	20
同三年	1,600	100	4,123	20	5,723	20	3,661	20	3,669	20	2,750	20
同四年	1,376	100	3,923	20	5,300	20	1,880	20	3,600	20	2,680	20

其ノ四 手形

年別	貸出		取立		當所		他所		當取		他取	
	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低
明治四十三年	19,322	100	8,566	20	26,279	20	2,333	20	3,988	20	1,773	20
明治四十四年	16,496	100	8,885	20	33,902	20	3,570	20	4,932	20	2,199	20
大正元年	16,586	100	10,188	20	35,090	20	3,296	20	5,090	20	2,875	20
同二年	17,333	100	11,065	20	38,182	20	3,337	20	7,337	20	3,333	20
同三年	10,866	100	8,909	20	39,243	20	5,769	20	6,336	20	2,888	20
同四年	14,877	100	7,836	20	43,353	20	2,699	20	5,155	20	3,333	20

其ノ五 金利

地方	貸付當座貸越		手形割引		定期預金		當座預金		小口預金		貯蓄	
	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低
福嶋	3.5%	1.0%	3.0%	1.0%	2.0%	1.0%	1.7%	0.7%	1.5%	0.5%	1.6%	0.5%
川山	3.0%	1.0%	3.0%	1.0%	1.8%	1.0%	1.6%	0.7%	1.5%	0.5%	1.5%	0.5%
白河	3.0%	1.0%	3.0%	1.0%	1.8%	1.0%	1.6%	0.7%	1.5%	0.5%	1.5%	0.5%
三春	3.0%	1.0%	3.0%	1.0%	1.8%	1.0%	1.6%	0.7%	1.5%	0.5%	1.5%	0.5%
若松	3.0%	1.0%	3.0%	1.0%	1.8%	1.0%	1.6%	0.7%	1.5%	0.5%	1.5%	0.5%
中田	3.0%	1.0%	3.0%	1.0%	1.8%	1.0%	1.6%	0.7%	1.5%	0.5%	1.5%	0.5%

名	稱	所在地	名	稱	所在地	名	稱	所在地
桑折	支店	同 桑折町	榎倉	支店	東白川郡榎倉町	須賀川	銀行石川支店	石川郡石川町
若松	支店	若松市	若松	支店	若松市	白河實業銀行矢吹支店		西白河郡矢吹町
石川	支店	石川郡石川町	飯坂	支店	信夫郡飯坂町	須賀川	支店	岩瀬郡須賀川町
福嶋銀行八嶋田出張所		信夫郡野田村	坂下	支店	河沼郡坂下町	平銀行	原町支店	相馬郡原町
第百七銀行二本松支店		安達郡二本松町	小高	支店	相馬郡小高町	原町商業銀行鹿嶋支店		同 鹿嶋町
白河	支店	西白河郡白河町	喜多方	支店	耶麻郡喜多方町	相馬銀行新山支店		同 鹿嶋町
第百七銀行保原支店		伊達郡保原町	岩代銀行藤田支店		伊達郡藤田町	相馬銀行鹿嶋出張所		相馬郡鹿嶋町
川俣	支店	同 川俣町	太宰銀行長岡出張所		同 長岡村	會津銀行喜多方支店		耶麻郡喜多方町

其ノ八 管内銀行ノ支店及出張所

名	稱	所在地	名	稱	所在地	名	稱	所在地
東京(日本銀行)	支店	福嶋市	東京(安田銀行)	郡山支店	安積郡郡山町	東京(共營貯蓄銀行)	支店	福嶋市
東京(第七銀行)	支店	同 福嶋市	桑折	出張所	伊達郡桑折町	若松	支店	若松市
平福	支店	石城郡平福町	三春	出張所	田村郡三春町	新潟(新潟銀行)	若松支店	同 若松市
東京(安田銀行)	支店	福嶋市	白河	出張所	西白河郡白河町	茨城(大子銀行)	石井支店	東白川郡石井村
若松	支店	若松市	須賀川	出張所	岩瀬郡須賀川町			
中村	支店	相馬郡中村町	喜多方	出張所	耶麻郡喜多方町			

其ノ九 管内銀行預金及貸付金 (大正四年)

預金	貸付金
同上 上年末 殘高	同上 上年末 殘高
九八、四七、五七〇円	一、二四、三三六円
一八、四三、三三六円	四、二四、三三六円
一、四八、九〇六円	一、四八、九〇六円

備考 本表ノ外ニ農工銀行ニ於テ日本勸業銀行代理貸付ヲ爲シタルモノ六〇五、四七五圓(大正四年)アリ
其他管外銀行支店ニ關スル部分ハ詳ナラス

第三節 無盡會社、報德社

本縣ノ無盡會社ハ福島市共榮無盡株式會社若松市會津勸業無盡株式會社ノ二アルノミ而シテ其ノ現況ハ左ノ如シ

名稱	資本金	積立金	口數	契約金	備考
共榮無盡株式會社	三〇、〇〇〇円	七、九〇〇円	一	一	大正四年上半期
會津勸業無盡會社	三〇、〇〇〇円	一一、〇〇〇円	一	一	同 五年上半期
計	六〇、〇〇〇	一八、九〇〇	二	二	

尙從來ノ頼母子講ハ各地ニ其ノ數甚タ多ク其ノ融通シツツアル金額モ亦甚タ多額ニ達スルナランモ調査詳ナラス次ニ報德社ハ其ノ數四十四社員千九百六十五人内務省ノ認可ヲ受ケ法人トナリタルモノ十二社四百八十六人否ラサルモノ三十二社千四百七十九人ニシテ多ク農村ニ設立セラレ商工業ニ關係アルモノ少シ

由來報德社ハ金融經濟機關ト謂ハンヨリハ寧ロ道德的機關ト稱スルヲ當レリトスト雖モ勤勞ヲ旨トシ貯蓄ヲ行ヒ資金ヲ積立テ金錢ノ貸付ヲ爲スヲ以テ社員ノ金融上相當ノ利益ヲ與ヘツツアルハ事實ナリトス大正元年迄ニ於ケル調査ニ依レハ其ノ各種ノ積立金ハ左ノ如シ

種類	項目	資				産		備考
		組合員	土臺金	積立金	加入金	其他	備	
法人タル報德社 任意團體ノ報德社 計	四八六	一、四六〇	三、七九六	五、九〇〇	一、七〇〇	其他ニハ不動産モアレト計上セス 同上		
	一、四七九	二、〇〇九	五、五五元	六、七二四	一三、三三七			
	一九七五	三、七〇〇	九、三三八	二二、六八五	一四、九八七			

第四節 其他ノ金融機關

一、質屋

質屋業ニ就テ調査スルニ左表ノ如シ

其ノ一

年次	店數	口		流		年末現在
		貸出	貸受	戻	流	
明治四十三年	八五三	一、〇六九、七三三	九一九、三三六		一三三、九四五	八〇〇、天五
同 四十四年	八〇五	一、〇三六、〇一九	七九五、八〇八		一五三、〇六五	七八八、二七七
大正 元年	八六五	一、〇九七、五六六	八七二、四四一		一七九、六六二	七五三、〇〇七

其ノ二

年次	店數	金		流		年末現在
		貸出	貸受	戻	流	
明治四十三年	八六一	一、二二五、九六三	八七二、九八九		一六九、七三四	八二六、三五三
同 四十四年	八七〇	一、〇六一、二二三	八五九、三四四		二二〇、九九七	七五八、七九二
同 四年	八二三	一、〇五九、〇五三	八五一、二六八		一七九、七八三	七五三、七六八

質屋業ノ金利ハ地方ニ依リ多少ノ相違アリ即チ最モ低キハ福島市ニ於ケル拾圓ニ付拾七錢壹圓ニ付貳錢貳厘トシ最モ高キハ石城郡ニ於ケル拾圓ニ付貳拾七錢七厘石城、石川、相馬各郡ニ於ケル壹圓ニ付參錢五厘トス而シテ縣下ヲ通スルトキハ拾圓ニ付最高貳拾貳錢五厘最低拾八錢貳厘平均貳拾貳錢八厘壹圓ニ付最高參錢五厘最低貳錢四厘平均貳錢九厘ナリトス其ノ一口ノ金額ハ明治四十三年ニ於テ壹圓拾七錢七厘大正元年ニ於テ壹圓參拾壹錢參厘同四年ニ於テ壹圓參拾六錢參厘即チ一口當金額ハ逐年増加ノ傾向ヲ見ル

二、信託會社

信託會社ハ近來著シク其ノ數ヲ増加シタリ而カ、モ其多クハ株式組織ニシテ合名會社之ニ亞キ其ノ數五十三社ヲ算ス而シテ其ノ資本金ハ四百七拾六萬八千餘圓拂込濟資本金百八拾壹萬九千二百圓ニ達シ地方產業上相當ノ融通ヲ爲シ其ノ發達ニ裨益ヲ與ヘツツアルハ明カナリト雖モ其ノ營業狀況ハ良否必スシモ一様ナラス又其ノ貸付金、寄託金等ニ關シテハ詳カナラサルモ大正四年無盡業法及貯蓄銀行法改行發布セラレシ以來是等信託會社ノ多クハ營業上尠カラサル打撃ヲ蒙リタルヤニ認メラルヲ以テ將來ハ純粹ノ意義ニ於ケル信託會社ノ健實ナル發達ヲ觀ルハ蓋シ期待スルニ難カラサルナリ今其現況ヲ述フレハ左ノ如シ

(大正五年末)

會社名	資本金	拂込濟資本金	貸付金	代理貸付金
本宮信託株式會社	100,000	50,000	56,000	62,000
二本松信託株式會社	10,000	9,000	11,000	5,100
中外共立信託株式會社	10,000	11,500	6,500	6,900
東海信託株式會社	50,000	11,000	33,500	6,700
福嶋信託株式會社	100,000	50,000	94,000	50,000
福信株式會社	10,000	7,500	22,500	10,000
東福信託株式會社	300,000	100,000	100,000	100,000
中村信託株式會社	100,000	5,000	10,000	10,000
相馬信託株式會社	100,000	25,000	10,000	1,000
東部信託株式會社	100,000	70,000	51,000	1,000

會社名	資本金	拂込濟資本金	貸付金	代理貸付金
原町信託株式會社	10,000	7,000	9,000	
新町信託株式會社	10,000	2,000	1,000	
浜江信託株式會社	50,000	2,000	3,000	
新山信託株式會社	10,000	10,000	11	
久之濱信託株式會社	50,000	10,000	6,000	
郡山信託株式會社	100,000	50,000	50,000	
四倉信託株式會社	50,000	10,000	5,000	
大沼信託株式會社	10,000	10,000	9,100	
會津信託株式會社	50,000	5,000	8,000	
南會津信託合資會社	1,000	1,000	3,000	
盛業信託合資會社	11,000	11,000	35,000	
東白信託株式會社	100,000	35,000	33,000	
飯野信託株式會社	50,000	26,000	4,000	
伊達信託株式會社	100,000	35,000	40,000	
磯川信託株式會社	50,000	21,000	40,000	
掛田信託株式會社	50,000	33,000	35,000	
藤田信託株式會社	50,000	35,000	11,000	
月信信託株式會社	50,000	33,000	30,000	
共益信託株式會社	50,000	11,000	30,000	
富田信託合資會社	1,000	8,000	1,000	
鹽川信託株式會社	10,000	10,000	3,000	
福飯信託株式會社	100,000	10,000	10,000	

飯坂信託株式會社	五〇,〇〇〇	五〇,〇〇〇	五〇,〇〇〇
松川信託株式會社	五〇,〇〇〇	五〇,〇〇〇	五〇,〇〇〇
	二五,〇〇〇	二五,〇〇〇	二五,〇〇〇
	一五,〇〇〇	一五,〇〇〇	一五,〇〇〇
	四八,〇〇〇	四八,〇〇〇	四八,〇〇〇

三、金錢貸付業

個人トシテノ金錢貸付業ニ關シテハ詳細ナル調査ヲ缺クモ今大正四年當初ニ於ケル仙臺稅務監督局ノ調査ニ依レハ縣下金錢貸付業者ノ資本金額ハ九百貳拾參萬九百拾圓千九百人ノ多キニ達スルモノノ如ク又法人トシテノ貸付資本金ハ貳百八拾參萬參百八拾圓百十二人ニ達ス此ノ資金ヲ合スレハ實ニ千貳百六萬壹千餘圓ヲ算シ銀行資本金(拂込濟)ノ六百貳拾七萬餘圓ニ比シテ將ニ其ノ二倍ニ垂ントスル狀況ヲ示セリ
而カモ是等金錢貸付業ノ利子ノ如キハ固ヨリ明瞭ナラスト雖モ之レヲ銀行業者ノ利子ニ比シ高歩ナルハ想像ニ難カラス其ノ金融狀態モ亦危險ナルモノ少カラサルナラム

第二章 方針並ニ施設方法

現況叙上ノ如ク本縣ノ金融機關ハ管下各地普ク其ノ設置ヲ見ルト雖モ之ヲ利用スルモノハ中以上ノ商工業及農業者ノ一部ニ止マリ中以下ノ農工業家ハ其ノ利益ニ均霑スルモノ今尙少キカ如シ
試ニ縣下ノ土地ニ對スル貸付ニ就テ考フルニ大正四年末ニ於ケル縣下田畑其他ノ地價ハ四千七百七拾五萬九千餘圓ニシテ之ニ對シ假ニ二倍半ノ貸付ヲ行フトスレハ約壹億千九百參拾九萬九千餘圓ヲ算スルニ拘ラス現ニ本縣農工銀行ノ貸付金ハ僅ニ八百萬圓ニ過キス尤モ普通銀行ニ於テモ土地ニ對シ貸付ヲ行ヒツツアルモ其

額ハ土地信用合シテ九百萬圓ヲ出テス之レニ依リテ見ルトキハ貸付ニ關シテハ尙幾多ノ餘裕アルカ如シ然ルニ大正四年ニ於ケル本縣民間ノ負債ハ農業者ノ分ノミニテモ實ニ參千六百萬圓一戸平均約參百圓以上ノ多キニ達シ而カモ此等ノ負債ノ多クハ一割二分乃至二割ノ高利ナリト云フ此ノ如ク一面ニ於テハ高利ノ負債ニ若ミツツアルニ拘ラス比較的利ノ金融機關ニ依ル貸付金ノ極メテ少キハ是レ全ク設備ノ不備ナル結果ト一般當業者カ金融機關ヲ利用スル觀念ノ發達セサルトキ依ルヘシト雖モ又一面ニ於テハ機關其ノモノノ組織ノ不完全ナルト一般當業者ノ信用ノ低キトキ其困ネルナリトキ故ニ金融機關ニ對スル方針トシテハ先ツ其組織ノ改善ト一般當業者ノ信用ノ向上トヲ圖リ同時ニ之ヲ利用スルノ思想ヲ啓發スルニ努力セサルヘカラス

第一節 方針

一、金融機關完備ヲ期スルコト
二、一般當業者ノ知識及信用ヲ向上セシムルコト

第二節 施設方法

- (一) 確實ナル銀行ヲシテ支店ヲ普及セシムルコト
- (二) 産業組合及倉庫業ヲ發達セシムルコト
- (三) 貯蓄ヲ獎勵スルコト
- (四) 農工銀行ノ貸付ヲシテ更ニ簡便ナラシムル様努ムルコト

第四 産業組合

第一章 現況

第一節 組合數及運用資金

縣下ニ於ケル産業組合ハ漸次順境ニ發展セルコト第二節ニ示スカ如クニシテ大正五年末現在ニ在リテハ其數三百五十二ヲ算シ縣下町村數ニ比スレハ約八割五分ニ當レリ而シテ大正四年内ノ運轉資金ハ四百拾參萬參千五百拾四圓(調査組合三三〇)即チ一組合ニ配當スレハ平均壹萬貳千五百貳拾五圓ナリト雖モ更ニ事業ノ分量ヨリ調査スルトキハ貸付金ハ貳百參拾參萬八千九百五拾貳圓一組合員平均百貳圓強貯金ハ五拾七萬貳千九百七拾七圓一組合員平均貳拾五圓強購買價額ハ參拾壹萬貳千八百六拾圓一組合員平均拾八圓強其他販賣價額ハ百九拾參萬千五百七拾五圓一組合員平均參百拾七圓強加工使用ノ料金ハ貳萬五千九百參圓一組合平均拾圓強ニ當ル右ノ内販賣價額ノ多大ナルハ蓋シ生糸羽二重等ノ如キ特殊物品ヲ取扱フモノヲ包含シタルカ故ニシテ之ヲ以テ一般ノ標準ト爲スコト能ハサルナリ

第二節 組合變遷ノ狀況

年次	組合數	組合員數	總資金	事業				
				貸付金	貯金	購買高	販賣高	加工及使用料
明治四十一年	一六〇	八五五五	二四一、九八七、七九	五九七、〇三九、一八二	五二七、七三六、三三	九八、〇七九、二七	九六、三三三、〇一	二、七七一、〇〇

同 四十二年	三三三	一一、九三三	五、七五八、二七六	七九一、六九〇、九三六	七〇八、四七五、八三九	一一三、三三七、五三四	一一四、八五九、五八四	一一、二七二、三三
同 四十三年	二五五	一五、〇三七	七、四八六、一九七	一、〇九七、七三三、三三〇	二、四七〇、七三三	一、六四、〇〇七、七	三、五四九、一七六	一一、二九六、三三
同 四十四年	二六七	一八、三三四	一、六〇〇、三六六、七	一、三、四四七、四四八	三、九六、一九〇、九二	三、九四、一九〇、七〇	五、九九、四七五、八	一、五五九、二九二
大正元年	三二六	三三、二七	一、三、二七、四四、五〇	一、三、七、七、〇、二、五七九	三、九、六、七、〇、九七〇	四、四、八、七、一、五五	一、〇、三、二、四、二、九三	二、四、六、五、六、四
同 二年	三三九	三三、七五	二、七、六、四、四、八	二、四、九、一、〇、一、六八〇	五、四、六、四、九、三三	六、八、一、三、九、八、五九	八、〇、九、四、四、三、九	一、八、六、一、五、五、九
同 三年	三三三	三三、八六	四、一、五、〇、五、一、九〇	二、三、二、七、九、七、一、九	五、〇、六、五、四、二、八七	四、八、七、三、三、九三〇	一、五、九、一、八、九、三、四、五	三、三、七、七、五、〇
同 四年	三五八	三六、五五	四、一、三、九、一、二、三、五	二、五、六、〇、七、七、五〇	五、七、一、九、七、七、〇、〇	三、二、八、六、〇、四、四	一、九、三、一、五、四、七、六〇	二、五、九、〇、二、一、五

第二章 方針並施設方法

本縣産業組合ノ現況ハ前述ノ如クニシテ其設立ハ殆ント町村數ニ近ツキタリト雖モ而モ一町村ニシテ數ケノ組合ヲ設立セル所アルヲ以テ未設ノ町村ハ今尙百六十七ヲ算シ未タ縣下ニ遍シト云フヲ得ス殊ニ組合員ハ中産者多數ヲ占メ小産者及大資産者ノ加入セルモノ甚タ少ク爲ニ其利澤一般的ナラス故ニ資産ノ各階級ヲ通シテ組合員タラシムルト共ニ内容充實ヲ圖リ又一面信用組合ハ一ケ町村一組合ヲ標準トシテ其ノ他ノ組合ハ地方ノ狀況ニ鑑ミ設立及合併ヲ獎勵シ獨リ農村ノミナラス一般産業ノ經濟及金融ヲ圓滑ナラシメント欲ス

第一節 方針

一、組合ノ改善ヲ圖ルコト

二、組合ノ合併及設立ヲ獎勵スルコト

第二節 施設方法

- (一) 産業組合ノ係員ヲ増員スルコト
- (二) 各組合ノ整理及監査ヲ勵行セシムルコト
- (三) 福島支會ノ事業ニ對シ補助ヲ續行スルコト

第三章 成績ノ豫想

將來ノ成績ハ容易ニ豫測スヘカラスト雖モ誠心誠意積極的努力ヲ續ケ右各項ノ計畫ヲ遂行シタランニハ十ヶ年後ニ於テ左ノ如キ成績ヲ收メ得ルノ豫想ナリ

- 一、組合總數ヲ五百以上ニ達セシメ一町村一組合ヲ設クルノ理想ヲ實現シ得ヘキコト
- 二、組合員數ハ五萬人以上ニ達シ大正四年末ノ組合員數二萬六千九百三十五人ニ比スレハ二倍以上ナラシメ得ヘキコト

- 三、運轉資金ハ壹千貳百萬以上ニ達シ大正四年度末ノ四百拾參萬參千五百拾四圓ニ比スレハ二倍以上トナリ一人當運轉資金ハ貳百五拾圓内外ニ至ラシメ得ヘキコト

- 四、現在ニ在リテハ三百五十ノ組合中成績ノ良好ナルハ約四十二過キサルモ十ヶ年後ハ二百以上ノ優良組合ヲ實現シ得ヘキコト

- 五、本縣産業組合ノ現況ヲ見ルニ借入金多クシテ貯金僅少ナルハ甚タ遺憾トスル所ナリト雖モ十ヶ年後ハ貯金額ヲシテ約五百萬圓(現在ノ約十倍)ニ達セシメ得ヘク從テ借入金ヲ減少セシメ得ヘキコト

附錄

其ノ一 收支計算

- (一) 産業組合ノ係員ヲ増員スルコト
- (二) 各組合ノ整理及監査ヲ勵行セシムルコト
- (三) 福島支會ノ事業ニ對シ補助ヲ續行スルコト

第三章 成績ノ豫想

將來ノ成績ハ容易ニ豫測スヘカラスト雖モ誠心誠意積極的努力ヲ續ケ右各項ノ計畫ヲ遂行シタランニハ十ヶ年後ニ於テ左ノ如キ成績ヲ收メ得ルノ豫想ナリ

一、組合總數ヲ五百以上ニ達セシメ一町村一組合ヲ設クルノ理想ヲ實現シ得ヘキコト

二、組合員數ハ五萬人以上ニ達シ大正四年末ノ組合員數二萬六千九百三十五人ニ比スレハ二倍以上ナラシメ得ヘキコト

三、運轉資金ハ壹千貳百萬以上ニ達シ大正四年度末ノ四百拾參萬參千五百拾四圓ニ比スレハ二倍以上トナリ

一人當運轉資金ハ貳百五拾圓内外ニ至ラシメ得ヘキコト

四、現在ニ在リテハ三百五十ノ組合中成績ノ良好ナルハ約四十二過キササルモ十ヶ年後ハ二百以上ノ優良組合ヲ實現シ得ヘキコト

五、本縣産業組合ノ現況ヲ見ルニ借入金多クシテ貯金僅少ナルハ甚タ遺憾トスル所ナリト雖モ十ヶ年後ハ貯金額ヲシテ約五百萬圓(現在ノ約十倍)ニ達セシメ得ヘク從テ借入金ヲ減少セシメ得ヘキコト

附 錄

其ノ一 收支計算

第一 農業

一、米

水田一反步當收支計算
一、現在

收入		支出	
項目	金額	項目	金額
支米	三、四三三	種子	〇、九〇〇
層米	〇、五五三	肥料	三、三六一
批米	〇、八四〇	勞銀	二、八〇〇
糞	二、三三〇	農具其他損料	一、二〇八
粗糞	〇、一五〇	公租	二、八二二
合計	六、二〇六	債計	〇、五〇〇
差引利益	三、七七〇	其他	一、九三〇
		合計	六、七六〇

備考

一、收入ニ於ケル一反步米收量ニ最近大正四年ヲ遡ルコト七ケ年中最豊最凶ノ二ケ年ヲ除キ殘五ケ

年ヲ平均セルモノナリ又價額モ同上ノ平均價額即チ拾五圓五拾壹錢ヲ以テシ屑米以下ハ推定價額ニ依レリ

二、支出ニ於ケル肥料費一反步參圓參拾八錢ハ堆肥其他自給肥料ノ使用量ヲ約百五十貫此推定價額ヲ壹圓五拾錢トシ殘壹圓八拾錢強ハ大豆粕其他金肥ノ配合量トセリ因ニ大正五年度耕地一反步當リ金肥ノ消費高ハ貳圓五拾貳錢ナルモノハ田ニ比シ畑地殊ニ桑園ニ對スル施肥量ノ多キヲ慮リ斯ク減額表示シタリ

二、將 來 (十箇年後)

項目	数量	金額	摘要
支米	一、八七六石	三二、〇〇六	一石ニ付拾六錢五厘
屑米	〇、一三〇	〇、六〇〇	堆肥ヲ二百貫トシ外ニ金肥ヲ增加セシム
批	〇、三〇〇	一、〇〇〇	人一日ニ付〇、五〇〇 馬同 一、〇〇〇
糞	二、五〇〇	二、六二五	糞 一、〇〇〇
粗糞	一、五〇〇	〇、四〇〇	糞 一、〇〇〇
合計		三五、七〇一	依裝改良ノ爲メ單價ヲ増額ス
支			
種	〇、〇〇〇	〇、八五〇	一升ニ付拾六錢五厘
肥料	一、〇〇〇	四、〇〇〇	堆肥ヲ二百貫トシ外ニ金肥ヲ增加セシム
勞	二、〇〇〇	三、〇〇〇	人一日ニ付〇、五〇〇 馬同 一、〇〇〇
農具	一、〇〇〇	一、〇〇〇	糞 一、〇〇〇
其他	三、〇〇〇	二、八二一	糞 一、〇〇〇
合計		二二、〇〇〇	依裝改良ノ爲メ單價ヲ増額ス
入			
摘要			
種	〇、〇〇〇	〇、八五〇	一升ニ付拾六錢五厘
肥料	一、〇〇〇	四、〇〇〇	堆肥ヲ二百貫トシ外ニ金肥ヲ增加セシム
勞	二、〇〇〇	三、〇〇〇	人一日ニ付〇、五〇〇 馬同 一、〇〇〇
農具	一、〇〇〇	一、〇〇〇	糞 一、〇〇〇
其他	三、〇〇〇	二、八二一	糞 一、〇〇〇
合計		二二、〇〇〇	依裝改良ノ爲メ單價ヲ増額ス
出			
摘要			
種	〇、〇〇〇	〇、八五〇	一升ニ付拾六錢五厘
肥料	一、〇〇〇	四、〇〇〇	堆肥ヲ二百貫トシ外ニ金肥ヲ增加セシム
勞	二、〇〇〇	三、〇〇〇	人一日ニ付〇、五〇〇 馬同 一、〇〇〇
農具	一、〇〇〇	一、〇〇〇	糞 一、〇〇〇
其他	三、〇〇〇	二、八二一	糞 一、〇〇〇
合計		二二、〇〇〇	依裝改良ノ爲メ單價ヲ増額ス

備考

一、玄米收量ハ各種改良ノ結果現收量ニ對シ三割ヲ増シ又一石ノ價額ハ現在ニ比シ壹圓昂騰ヲ豫想シ拾六圓五拾壹錢トセリ

二、支出ニ於テ種子ハ反當一升ヲ減シ肥料ハ現在ニ比シ二割ヲ増加セリ勞銀ハ馬耕ニ依リ人夫ノ節約ヲ圖ルモ勞銀ヲ一日一人五拾錢トシ又馬ノ功程ヲ人ノ二人分トシ壹日一頭壹圓トシテ計上シタリ

一、麥

甲、畑麥一反步當收支計算

一、現在

項目	数量	金額	摘要
支			
種	〇、〇〇〇	〇、八五〇	一升ニ付拾六錢五厘
肥料	一、〇〇〇	四、〇〇〇	堆肥百五十貫外ニ糞尿灰ノ類
勞	二、〇〇〇	三、〇〇〇	人一日 〇、五〇〇
農具	一、〇〇〇	一、〇〇〇	糞 一、〇〇〇
其他	三、〇〇〇	二、八二一	糞 一、〇〇〇
合計		二二、〇〇〇	依裝改良ノ爲メ單價ヲ増額ス
入			
摘要			
種	〇、〇〇〇	〇、八五〇	一升ニ付拾六錢五厘
肥料	一、〇〇〇	四、〇〇〇	堆肥百五十貫外ニ糞尿灰ノ類
勞	二、〇〇〇	三、〇〇〇	人一日 〇、五〇〇
農具	一、〇〇〇	一、〇〇〇	糞 一、〇〇〇
其他	三、〇〇〇	二、八二一	糞 一、〇〇〇
合計		二二、〇〇〇	依裝改良ノ爲メ單價ヲ増額ス
出			
摘要			
種	〇、〇〇〇	〇、八五〇	一升ニ付拾六錢五厘
肥料	一、〇〇〇	四、〇〇〇	堆肥百五十貫外ニ糞尿灰ノ類
勞	二、〇〇〇	三、〇〇〇	人一日 〇、五〇〇
農具	一、〇〇〇	一、〇〇〇	糞 一、〇〇〇
其他	三、〇〇〇	二、八二一	糞 一、〇〇〇
合計		二二、〇〇〇	依裝改良ノ爲メ單價ヲ増額ス
差引利益計		六、五〇六	

備考

- 一、畑麥ノ收量(大小麥ヲ含ム)及價額ハ大正四年ヨリ遡ルコト七ケ年中最豊、最凶ノ二ケ年ヲ除キ殘五ケ年ヲ平均セルモノトス
- 二、本調査ニ於テ一反歩ノ利益六拾五錢四厘ナルモソハ大小麥ノ平均價額ニ依ルカ爲メニシテ若シ全部之ヲ大麥トセハ小麥ニ比シ遙ニ低廉ナルニ依リ自然收支ニ於テ缺損ヲ示スニ至ルヘシ

一、將 來 (十箇年後)

收		入		支		出	
項目	数量	金額	摘要	項目	数量	金額	摘要
合計		1,370.00		合計		3,138.00	
差引利益		1,370.00		種子	0.020石	0.200	一升ニ付
麥	1,879石	1,237.50	一石ニ付	肥料	10人	3,000.00	堆肥其他糞尿、過燐酸、石灰、灰
稈	100,000	0.000	百貫	農具損料修繕		5,000.00	一人一日
				公租		0.020	
				其他		0.020	
				計		10,138.00	

備考

- 一、畑麥(大小麥ヲ含ム)ハ現收量ニ對シ三割五分ノ增收トシ價額ハ品質ノ改良ト物價ノ騰貴トヲ豫想シ一石ニ付五拾錢ヲ昂上セシム
- 二、肥料ハ田麥ト同シク壹圓ノ増加ヲ見込ミ勞銀ハ同様二人ノ節減ヲ加ヘタリ又公租ハ畑ニ在リテハ一般ニ二毛作以上ノ作付ナルヲ以テ一反歩ノ公租額七拾六錢參厘ヲ半減セリ

一、現 在

收		入		支		出	
項目	数量	金額	摘要	項目	数量	金額	摘要
合計		10,263.00		合計		8,130.00	
差引利益		10,263.00		種子	0.020石	0.200	一升ニ付
麥	1,612石	10,183.00	一石	肥料	3人	2,000.00	堆肥百五十貫外ニ糞尿灰類
稈	200,000	0.780	百貫	農具損料及修繕		4,000.00	一人一日
				公租		0.020	
				其他		0.020	
				計		8,130.00	稻ノ裏作ニ付公租ヲ省ケリ

備考

田麥ノ現在收量ハ大小麥ヲ通シ平均一反歩一石六斗六升一合トシ其價額ハ大正四年ヨリ遡ルコト七ケ年中最豊、最凶ノ二ケ年ヲ除キ殘五ケ年ヲ平均セル大小麥ノ平均價額トス

合 計	10,000	勞具損料及修	5,000	一人一日	0,000
差引利益		公租	0,500		
		其他	0,500		
		合計	1,000		
			八,000		
			一,000		

備考

一、大豆ハ現收量ニ對シ三割増トシ價額ハ品質ノ改良ト價額ノ騰貴トヲ豫想シ一石拾圓トス
 二、肥料ハ灰、過磷酸石灰ノ使用量ヲ多カラシメ一反歩ニ付七拾錢ノ増加ヲ見込ム勞銀ハ稻麥ト同シク單價ヲ高メ總員數ニ於テ一人ヲ減シ又公租モ麥ト同シク半減セリ

四、煙 草

一反歩當收支決算

一、現 在 (大正四年)

甲、收入ノ部

項 目	數 量	總 額	單 價	備 考
煙草收納高	三,000	二六,九四七	一貫目 〇,九一五	

乙、支出ノ部

項 目	數 量	總 額	單 價	備 考
人 夫 男	四九人	二,八八〇	一貫目 〇,三六〇	專賣支局ノ調査標準ヲ基礎トシ人夫ハ凡テ年傭ト見做シ衣食住ノ概數ヲ見積リテ計上セリ故ニ普通賃銀ニ比スレバ非常ニ低廉ナリトス 杭竹、蘆繩、苗被布、針金等 人糞尿 堆肥、下肥、油粕、大豆粕等 繩、杭、細木、預、專用番小屋、材料薪炭等 繩、繩等 農具其他一切 地代ハ自作者ト雖當然負擔スヘキ支出額トシテ計上セリ 種子代、總代人報酬、耕作組合費、聯合組合費、收納運搬費等 租稅其他
同 女	四〇五	七,三二〇	一貫目 〇,一八〇	
苗床材料		〇,三〇〇		
苗床肥料		〇,〇〇〇		
本烟肥料		六,八八五		
乾燥材料		一,一〇〇		
包裝材料		〇,七〇〇		
器具損料		〇,三〇〇		
地 代		五,〇〇〇		
雜 費		一,二〇〇		
公課諸掛		〇,六五三		
計		三〇,八二七		

備考 各項共主トシテ專賣支局ノ調査方針ニ基ツキ計上セリ

丙、收支決算

收入總額	二六,九四七	支出總額	三〇,八二七	差引損益	五,八八〇	備 考
------	--------	------	--------	------	-------	-----

二、將 來 (十年後)

收		支	
項目	數量	項目	數量
煙草收納高	40,000	人夫	4,500
差引利益	20,000	同男女	4,500
	20,000	苗床肥料	40,000
		苗床肥料	40,000
		木烟肥料	40,000
		乾燥肥料	40,000
		包裝材料	40,000
		器具材料	40,000
		地租	40,000
		雜費	40,000
		公課掛	40,000
計	20,000	計	3,200

四〇〇

五、藥用人參

一反步當收支計算

一、現 在

收		支	
項目	數量	項目	數量
土權人參代赤種子代	2,900	種子代	3,000
合 計	2,900	肥料代	7,000
差引利益	200,000	人夫代	7,000
(一ヶ年純益)	200,000	日覆材料代	7,000
		公稅掛	7,000
		土地資本ニ對スル利子	7,000
		其他ノ資本ニ對スル利子	7,000
		農具損料	7,000
		計	3,200

二、將 來 (十ヶ年後)

收		支	
項目	數量	項目	數量
土權人參代赤種子代	2,900	種子代	3,000
合 計	2,900	肥料代	7,000
差引利益	200,000	人夫代	7,000
(一ヶ年純益)	200,000	日覆材料代	7,000
		公稅掛	7,000
		土地資本ニ對スル利子	7,000
		其他ノ資本ニ對スル利子	7,000
		農具損料	7,000
		計	3,200

一〇一

合計	差引純益 (一ヶ年純益)	三六九〇〇	日覆材料代 公稅諸掛 土地資本ニ對 スル利子 其他資本ニ對 スル利子	五七、九三三 同 五、三三三 現在ニ同シ 三、二五〇 同 三〇、〇五五 同 三八、七八四 五〇、三三六 (C.I.P.附)
----	-----------------	-------	---	---

六、蒔 蒔

收支計算

一、現 在 (大正四年)

甲、收入ノ部

年度別	栽培反別	項 目	數	量	總 價	單 價	備 考
初年目(大正元年)	一反歩	子塊生産	三三、〇〇〇	三三、〇〇〇	一貫目〇、三〇		栽培反別ハ種玉ノ發育ニヨル増加歩合ナリ 荒粉價額ハ大正四年度平均一畝(四十五貫)ニ付六拾八圓拾九錢ノ割ヲ以テ計上セリ
二年目(大正二年)	一反五畝歩	同	一八、〇〇〇	五、〇〇〇	同		
三年目(大正三年)	二反二畝歩	同	三六、〇〇〇	一〇、〇〇〇	同		
四年目(大正四年)	三反三畝歩	同	一〇八、〇〇〇	三〇、三三〇	同		
計	八反歩	荒粉製造販賣高	一八七、〇〇〇	五二、六三〇	七八、一六三	一、五二四	

備考

本作物ハ荒粉ニ製造シ得ル迄一代ヲ經過シタル後ニ非ラサレハ資本ノ回收ヲ見ル能ハサルノ事情アルヲ以テ前表ニハ便宜其植付初年ヨリ四年目ニ至ル各年度ノ收入ヲ調査シ更ラニ之レヲ通計シテ一ヶ年一反歩ノ收入ヲ計算セリ但シ中等自作ノ場合ヲ假想シ生産地方ニ於ケル平均ヲ査定ス

乙、支出ノ部

科 目	栽培反別	種玉代	總資本ニ對スル利子	勞 銀	銀 肥料代	包 裝 料	公課諸掛	地 代	計 金
初年(大正元年)	一反歩	三三、〇〇〇	九、四七七	一五、四〇〇	九、九一〇	—	一、一〇三	五、〇〇〇	七五、一八〇
二年(大正二年)	一反五畝歩	—	一七、六五五	三三、九〇〇	一四、八九五	—	一、九〇〇	六、〇〇〇	六三、四九〇
三年(大正三年)	二反二畝歩	—	三一、一八七	三三、〇〇〇	二八、六〇〇	—	二、八六七	八、八〇〇	一〇四、八三四
四年(大正四年)	三反三畝歩	—	五九、六六一	八三、二五〇	五四、六一五	四、七〇〇	四、〇〇〇	三三、三〇〇	二九、七三三
計	八反歩	三三、〇〇〇	一七、九五〇	一五五、〇五〇	一〇八、〇二〇	四、七〇〇	一〇、五一一	三三、〇〇〇	三七一、一六三
一ヶ年一反歩當	—	四、一二五	二、二四三	一九、三八〇	一三、五〇五	〇、五九一	一、三〇三	四、一二五	五七、九三三

備考

收入ノ部ニ準ス

丙、右四ヶ年ノ收支計算

年度別	栽培反別	収入總計	支出總計	差
初年 (大正元年)	一反歩	五,三〇〇	七,二〇〇	六,八〇〇
二年 (大正二年)	一反五畝歩	五,〇〇〇	六,〇〇〇	五,八〇〇
三年 (大正三年)	二反二畝歩	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	九,七〇〇
四年 (大正四年)	三反三畝歩	八二,八〇〇	三九,七〇〇	五三,一〇〇
一ヶ年一反歩當平均		一〇,三九〇	五七,六〇〇	四七,二〇〇

備考

前表ニ依レハ支出金ノ大部分ヲ占ムルモノハ勞銀ニシテ之レニ肥料代種玉代資本利子其他ヲ加算スレハ四ヶ年八反歩支出總額金四百六拾壹圓拾九錢四厘之レヲ收入總額金八百參拾圓參拾貳錢參厘ヨリ差引クトキハ金參百六拾九圓拾貳錢九厘ノ收益ヲ得而シテ一ヶ年一反歩當平均收入金百參圓七拾九錢ヨリ支出金五拾七圓六拾五錢ヲ差引クトキハ金四拾六圓拾四錢ノ利益トナルモ是レ四ヶ年ヲ通シタル計算ニシテ荒粉(種玉ヲ販賣スル場合ハ別ナリ)製造ニ連セサル年度内ニ於テハ資本ノ固定ヲ餘義ナクセラレ而カモ年ノ豊凶相場ノ變動乃至病害等ノ打撃アル場合ハ相應ノ減收ヲ見ルヲ免レサルモノトス

同上 勞銀内譯

年度別	栽培反別	男	女	一人一日賃銀	總人計	總賃銀	摘
初年 (大正元年)	一反歩	三人	三人	〇.四〇〇	六人	二五.〇〇〇	人夫賃ハ日雇ト見做シ食費雇人ノ賃トス、人夫數ハ春秋ノ整地肥料運搬、施肥、植付、中耕、除草其他ノ手入及乾燥貯蔵手當荒粉調製、乾燥申拔キ包裝其他ノ作業ヲ見禮リテ計上セリ
二年 (大正二年)	一反五畝歩	三人	三人	〇.四〇〇	六人	二五.〇〇〇	
三年 (大正三年)	二反二畝歩	四人	四人	〇.四〇〇	八人	三二.〇〇〇	
四年 (大正四年)	三反三畝歩	二人	二人	〇.四〇〇	四人	一六.〇〇〇	
一ヶ年一反歩當平均		二元	二元	〇.四〇〇	四人	一六.〇〇〇	

右一ヶ年ノ内譯

種目	數	量價	額	備考	種目	數	量價	額	備考
差計			10,390		種玉			1,200	四ヶ生ヲ通算シテ其ノ平均額ヲ掲ク以下同シ
差引利益			10,390		種玉代			1,200	
			10,390		勞代			1,600	
			10,390		肥料代			1,000	
			10,390		包料代			1,000	
			10,390		地代			1,000	
			10,390		公課			1,000	
			10,390		總資本ニ對ス			1,000	
			10,390		利子			1,000	
			10,390		計			1,000	

一、將 來 (十年後)

種目		種目	
数量	金額	数量	金額
荒粉	七、四三七	荒粉	七、四三七
計	二四、六六八	計	二四、六六八
差引利益	七、四三七	差引利益	七、四三七
種目	種目	種目	種目
種玉代	種玉代	種玉代	種玉代
勞銀代	勞銀代	勞銀代	勞銀代
肥料代	肥料代	肥料代	肥料代
包袋料代	包袋料代	包袋料代	包袋料代
地代	地代	地代	地代
公課掛	公課掛	公課掛	公課掛
總資本ニ對スル利子	總資本ニ對スル利子	總資本ニ對スル利子	總資本ニ對スル利子
計	計	計	計
六五、六五〇	六五、六五〇	六五、六五〇	六五、六五〇
均額	均額	均額	均額
四ヶ年ヲ通算シタル平均額	四ヶ年ヲ通算シタル平均額	四ヶ年ヲ通算シタル平均額	四ヶ年ヲ通算シタル平均額

備考

普通生玉五貫六百々ヨリ荒粉一貫々ヲ製出シ得ルモノトシテ計算セリ尙ホ荒粉價額ハ大正四年ノ平均トス今後ニ於ケル品種ノ撰擇栽培法ノ改良合理的肥料ノ配合荒粉乾燥法ノ改善病虫害ノ防除又ハ販賣方法等着々之レカ進捗ヲ圖ラハ十年後ニ於テハ少クトモ現在ノ生産額ニ對シ二割ノ增收ヲ期スルコト容易ノ業タルヘシ

七、櫻桃

一反步當收支計算

項目		項目	
数量	金額	数量	金額
櫻桃	五、四三三	櫻桃	五、四三三
計	三、一〇〇	計	三、一〇〇
差引利益	三、一〇〇	差引利益	三、一〇〇
種目	種目	種目	種目
苗木代	苗木代	苗木代	苗木代
肥料代	肥料代	肥料代	肥料代
農具損料	農具損料	農具損料	農具損料
公課	公課	公課	公課
人夫賃	人夫賃	人夫賃	人夫賃
雜費	雜費	雜費	雜費
堆肥	堆肥	堆肥	堆肥
下米	下米	下米	下米
木灰	木灰	木灰	木灰
計	計	計	計
一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇
一本拾錢	一本拾錢	一本拾錢	一本拾錢
四十本十年割	四十本十年割	四十本十年割	四十本十年割
堆肥一貫壹錢	堆肥一貫壹錢	堆肥一貫壹錢	堆肥一貫壹錢
下米一貫貳錢	下米一貫貳錢	下米一貫貳錢	下米一貫貳錢
木灰一貫五錢	木灰一貫五錢	木灰一貫五錢	木灰一貫五錢
一人四拾錢	一人四拾錢	一人四拾錢	一人四拾錢

二、將來 (十ヶ年後)

項目		項目	
数量	金額	数量	金額
櫻桃	三、一〇〇	櫻桃	三、一〇〇
計	六、七、五〇〇	計	六、七、五〇〇
差引利益	三、一〇〇	差引利益	三、一〇〇
種目	種目	種目	種目
苗木代	苗木代	苗木代	苗木代
肥料代	肥料代	肥料代	肥料代
農具損料	農具損料	農具損料	農具損料
公課	公課	公課	公課
人夫賃	人夫賃	人夫賃	人夫賃
雜費	雜費	雜費	雜費
堆肥	堆肥	堆肥	堆肥
下米	下米	下米	下米
木灰	木灰	木灰	木灰
計	計	計	計
三、一〇〇	三、一〇〇	三、一〇〇	三、一〇〇
一本拾錢	一本拾錢	一本拾錢	一本拾錢
四十本十年割	四十本十年割	四十本十年割	四十本十年割
堆肥一貫壹錢	堆肥一貫壹錢	堆肥一貫壹錢	堆肥一貫壹錢
下米一貫貳錢	下米一貫貳錢	下米一貫貳錢	下米一貫貳錢
木灰一貫五錢	木灰一貫五錢	木灰一貫五錢	木灰一貫五錢
一人四拾錢	一人四拾錢	一人四拾錢	一人四拾錢

差引利益	三三	空	三三	人夫賃	三三	一人五拾錢
合計	三三	空	三三	公課	一〇〇〇	一人五拾錢
				農具損料	一〇〇〇	一人五拾錢
				病虫防除劑	三〇〇〇	一人五拾錢
				雜費	一〇〇〇	一人五拾錢

備考 明治四十三年ノ栽培本數ハ約一萬四千本ニシテ大正四年ノ栽培本數ハ約四萬本ナリ大正四年ノ收量ハ四十三年以前ニ栽植セルモノノ收量ニシテ其後ノ栽植本數約二萬六千本ハ殆ント結果年限ニ達セス故二十年後ハ之等ノモノモ結果スヘク而シテ現在ニ對シ約二倍五分ノ收量ヲ得ヘシ

八、萃 果

一反步當收支計算

一、現 況

項 目	收 入	支 出
萃 果	八三三 價額拾八錢	一本拾錢 四十本ノ十ヶ年
肥料代		堆肥一貫五錢 下米一貫拾錢 木灰一貫五錢
苗木代		堆肥一貫五錢 下米一貫拾錢 木灰一貫五錢
公 夫 賃		堆肥一貫五錢 下米一貫拾錢 木灰一貫五錢
農具損料		堆肥一貫五錢 下米一貫拾錢 木灰一貫五錢
病虫防除劑		堆肥一貫五錢 下米一貫拾錢 木灰一貫五錢
雜費代		堆肥一貫五錢 下米一貫拾錢 木灰一貫五錢
合計	八三三	九六〇〇

差引利益	三三	空	三三	人夫賃	三三	一人四拾錢
合計	三三	空	三三	公課	一〇〇〇	一人四拾錢
				農具損料	一〇〇〇	一人四拾錢
				病虫防除劑	三〇〇〇	一人四拾錢
				雜費代	一〇〇〇	一人四拾錢

二、將 來 (十ヶ年後)

項 目	收 入	支 出
萃 果	五三三 價額ハ之ヲ向上セザルモノト見做ス	一本拾錢 四十本ノ十ヶ年
肥料代		堆肥一貫五錢 下米一貫拾錢 木灰一貫五錢
苗木代		堆肥一貫五錢 下米一貫拾錢 木灰一貫五錢
公 夫 賃		堆肥一貫五錢 下米一貫拾錢 木灰一貫五錢
農具損料		堆肥一貫五錢 下米一貫拾錢 木灰一貫五錢
病虫防除劑		堆肥一貫五錢 下米一貫拾錢 木灰一貫五錢
雜費代		堆肥一貫五錢 下米一貫拾錢 木灰一貫五錢
合計	五三三	九六〇〇

合計	一、五〇〇
差引利益	三、六七〇

備考

明治四十三年植付本數ハ約八千本ニシテ大正四年ハ約二萬四千本ナリ大正四年ノ收量ハ明治四十三年以前ニ植付タルモノノ收量ニシテ四十三年以後ニ植付タルモノハ未タ殆ント結果セヌ而シテ大正四年ノ植付本數ハ明治四十三年ノ約三倍ニ達セリ十年後ニハ收量モ現在ニ對シ約三倍ニ増加スヘシ

九、梨

一反歩當收支計算

一、現況

收		入		支		出	
項目	數量	金額	摘要	項目	數量	金額	摘要
梨	三〇〇	三、一〇〇	一貫拾八錢	苗木代	三〇〇	三、〇〇〇	五箇ノ十年割
				肥料代	三〇〇	八、〇〇〇	堆肥一貫壹錢 下肥一貫貳錢
				農具代	三〇〇	一、〇〇〇	米糠一貫拾錢
				公人夫賃	三〇〇	一、〇〇〇	一人四拾錢
				合計		一、一〇〇	

合計	一、一〇〇
差引利益	二、五〇〇

二、將來 (十ヶ年後)

收		入		支		出	
項目	數量	金額	摘要	項目	數量	金額	摘要
梨	三〇〇	三、〇〇〇	現收ニ比シ五割ノ増 收トス一貫貳拾錢	苗木代	三〇〇	三、〇〇〇	五箇ノ十年割
				肥料代	三〇〇	二、〇〇〇	堆肥一貫壹錢 下肥一貫貳錢
				農具代	三〇〇	一、〇〇〇	米糠一貫拾錢
				公人夫賃	三〇〇	一、〇〇〇	木灰一貫五錢
				病虫防除劑	三〇〇	一、〇〇〇	一人五拾錢
				袋仕立代	三〇〇	一、〇〇〇	
				雜費	三〇〇	一、〇〇〇	一枚壹厘五毛

差引利益計	合	農	公	人	種	項
六	農具損料計	肥料	夫課	夫賃	子代	目
三、六〇〇						數
						量
						金
						額
						出
						要
						一人四拾錢

二、將 來 (十ヶ年後)

差引利益計	合	農	公	人	種	項
六	農具損料計	肥料	夫課	夫賃	子代	目
八二						數
三、〇〇〇						量
三、〇〇〇						金
三、〇〇〇						額
						出
						要
						一人五拾錢

十二、甘 藍

一反步當收支計算

一、現 況

差引利益計	合	農	公	人	種	項
三、一〇〇	農具損料計	肥料	夫課	夫賃	子代	目
三、一〇〇						數
三、一〇〇						量
三、一〇〇						金
						額
						出
						要
						一人四拾錢

二、將 來 (十ヶ年後)

差引利益計	合	農	公	人	種	項
五八	農具損料計	肥料	夫課	夫賃	子代	目
五八						數
五八						量
五八						金
五八						額
						出
						要
						一人五拾錢

合 差引利益計	五八	四一、四四〇	農具損料計	三、〇〇〇 三、〇〇〇 七、〇〇〇
---------	----	--------	-------	-------------------------

十三、葱 頭

一反步當收支計算
一、現 況

項 目	數	量	金 額	入	出
葱 頭	二天	三、七〇〇	一貫五拾五錢		
合 差引利益計	二天	三、七〇〇			
項 目	數	量	金 額	入	出
種 子	八合	三、〇〇〇	一貫五拾錢		
肥 料	堆肥 一貫壹錢 下肥 一貫貳錢 木灰 一貫五錢	三、〇〇〇	三、〇〇〇		
人 夫	一人	四拾錢			
公 課			一、〇〇〇		
農 具			一、〇〇〇		
損 料			三、〇〇〇		
合 計			一、五九七		

二、將 來 (十ヶ年後)

項 目	數	量	金 額	入	出
葱 頭	二天	三、七〇〇	一貫五拾五錢		
合 差引利益計	二天	三、七〇〇			
項 目	數	量	金 額	入	出
種 子	八合	三、〇〇〇	一貫五拾錢		
肥 料	堆肥 一貫壹錢 下肥 一貫貳錢 木灰 一貫五錢 過燐酸 一貫拾五錢	三、〇〇〇	三、〇〇〇		
人 夫	一人	五拾錢			
公 課			三、〇〇〇		
農 具			一、〇〇〇		
損 料			三、〇〇〇		
合 計			六、八二七		

十四、漬 菜

一反步當收支計算
一、現 況

項 目	數	量	金 額	入	出
漬 菜	四天	三〇、〇〇〇	一貫五錢		
合 差引利益計	四天	三〇、〇〇〇			
項 目	數	量	金 額	入	出
種 子	四合	三〇〇	一貫貳錢		
肥 料	堆肥 一貫壹錢 下肥 一貫貳錢 木灰 一貫五錢	三〇〇	三〇〇		
人 夫			八、五〇〇		
公 課			三、〇〇〇		
農 具			一、〇〇〇		
損 料			三、〇〇〇		
合 計			八、五〇〇		

合 差 引 利 益 計	486	10,800		合 農 公 人 具 具 夫 損 損 夫 計 料 課 賃	25人	10,000 1,600 500 10,000 3,000	一人四拾錢
-------------------	-----	--------	--	--------------------------------------	-----	---	-------

二、將 來 (十ヶ年後)

項 目	數	量	金	額	入	要	項 目	數	量	金	額	出	要
漬 菜		49貫	2元、300		現收ニ比シテ割ノ増 收トナス價額モ亦向 上スルモノトシテ一 貫六錢ニ見積レリ		種 子 代	4合	300貫	1,000		一合貳拾五錢	
合 差 引 利 益 計		486	2元、300				肥 料 代	堆肥一貫壹錢 下肥一貫貳錢 木灰一貫五錢	300貫 100貫 250貫	2,500		一人五拾錢	
							公 夫 賃		3人	3,000			
							農 具 損			500			
							合 農 具 損 計			3,500			
										3,180			

十五、紫雲英

一反歩當收支計算

項 目	數	量	金	額	入	要	項 目	數	量	金	額	出	要
紫雲英生草		760貫	2元、470				種 子 代	0.000石	1,100	1,100		一升	0.000
合 差 引 利 益 計			2元、470				肥 料 代	3,500	1,000	1,000		灰三十貫參拾錢 過燐酸五貫七拾錢 百貫	0.000 0.000 11,000
							公 夫 賃		3,500	3,500			
							農 具 損		4,500	4,500			
							合 農 具 損 計			4,500			

備考

紫雲英ノ反當收量ハ現在及將來(十年後)共ニ大差ナキモノト認ムルヲ以テ之レカ區別ヲ爲サス

十六、間作大豆

一反歩當收支計算

項 目	數	量	金	額	入	要	項 目	數	量	金	額	出	要
青刈大豆		250貫	3元、500				種 子 代	0.000	0.000	0.000		一升二付	0.100
合 差 引 利 益 計			3元、500				肥 料 代	1人	0.000	0.000		灰十八貫 過燐酸三貫	0.100

合 計	三、六五五	合 計	一、四〇〇
差引利益	二、一九五		

備考

本表ハ十年後ノ分ニシテ現在ハ桑園間作ノ實例ナシ

第二 蠶 絲 業

一、養 蠶

甲、春 蠶 (對蠶量四匁)

一、現 在

收 入		支 出	
項 目	數 量	項 目	數 量
繭 賣 却 代	上繭 一貫目二付 玉繭 一貫目二付 屑繭 一貫目二付	蠶 種 代	蠶種九〇蛾 二〇匁
蠶 沙 賣 却 代	二〇五〇匁	人 夫 賃	男 二五五人 女 二五五人
雜 收 入	一、〇〇〇匁 一貫二付金參錢 一貫二付金參錢	蠶 室 損 料	二、〇〇〇匁
計	六〇、四〇〇匁	諸 稅 諸 掛 費	一、五〇〇匁
差 引 損		木 炭 三貫 入 依 三〇匁 消 毒 費 其 他	六、〇〇〇匁
		雜 費	三、六五〇匁
		計	一、四〇〇匁
		要	

一、現在

收		支	
項目	數量	項目	數量
桑葉代	一八〇貫	公課	一、〇〇〇
桑條代	伐採枝條二把	土地價格ニ對スル利息	七、〇〇〇
計	二七、〇〇〇	農具維持費	一、〇〇〇
差引損失	二、四〇〇	桑園新設費	七、〇〇〇
		賦並ニ利子	八、〇〇〇
		計	二九、〇〇〇
		土地購入並ニ桑苗代植	五、八〇〇
		付人夫等ニ對スル二ヶ年賦並ニ利子	三、二〇〇
		租稅縣稅町村稅平均	一、〇〇〇
		時價ニ對スル六分五厘ノ利子	八、〇〇〇
		中耕其他ニ要スル人夫	四、五〇〇
		士人平均賃金四拾五錢	七、〇〇〇
		計	二九、〇〇〇

二、將來

收		支	
項目	數量	項目	數量
桑葉代	三三二貫	公課	一、〇〇〇
桑條代	伐採枝條二把	土地價格ニ對スル利息	九、三〇〇
計	三三二貫	農具維持費	一、〇〇〇
差引損失	二、四〇〇	桑園新設費	七、〇〇〇
		賦並ニ利子	八、〇〇〇
		計	二六、〇〇〇
		土地購入並ニ桑苗代植	五、八〇〇
		付人夫等ニ對スル二ヶ年賦並ニ利子	三、二〇〇
		租稅縣稅町村稅平均	一、〇〇〇
		時價ニ對スル六分五厘ノ利子	八、〇〇〇
		中耕其他ニ要スル人夫	四、五〇〇
		士人平均賃金四拾五錢	七、〇〇〇
		計	二六、〇〇〇

差引利益

二〇、〇〇〇

農具維持費
桑園新設費
賦並ニ利子
計

一、〇〇〇
七、〇〇〇
八、〇〇〇
三三、〇〇〇

現在ニ同シ

乙、高木桑園（一反步當）

一、現在

收		支	
項目	數量	項目	數量
桑葉代	二〇〇貫	公課	一、〇〇〇
計	二〇〇貫	土地價格ニ對スル利息	五、一〇〇
差引損失	一八、〇〇〇	農具維持費	一、〇〇〇
		桑園新設費	三、〇〇〇
		賦並ニ利子	五、〇〇〇
		計	一五、一〇〇
		土地購入並ニ桑苗代植	一、九〇〇
		付人夫等ニ對スル二ヶ年賦並ニ利子	三、二〇〇
		租稅縣稅町村稅平均	一、〇〇〇
		時價ニ對スル六分五厘ノ利子	五、一〇〇
		中耕其他ニ要スル人夫	三、〇〇〇
		士人平均賃金四拾五錢	五、〇〇〇
		計	一五、一〇〇

二、將來

收		支	
項目	金額	項目	金額
桑業代	二五〇	土地價額ニ對スル利息金	一、三〇〇
計	二七、〇〇〇	公債	五、七〇〇
差引利益		人夫貸	四、四〇〇
		肥料代	七、五〇〇
		雜費	二、〇〇〇
		農具維持費	一、〇〇〇
		桑園新設費	三、五〇〇
		賦並ニ利子	三、〇〇〇
		計	一、〇〇〇

三、蠶種

甲、普通蠶種製造

イ、春蠶種 (對蠶量四匁)

一、現在

收		支	
項目	金額	項目	金額
除去年賣却代	七、五五〇	原蠶種	一〇〇
出殼繭代	三、五〇〇	飼育男延	三、三〇〇
蠶沙代	四、五〇〇	人女延	三、五〇〇
桑條代	一、〇〇〇	採種男延	五、〇〇〇
蠶種代	七、七五〇	女延	五、〇〇〇
計	二七、〇〇〇	計	一、〇〇〇

二、將來

收		支	
項目	金額	項目	金額
除去年賣却代	九、〇〇〇	原蠶種	一〇〇
出殼繭代	三、〇〇〇	飼育男延	三、〇〇〇
蠶沙代	三、〇〇〇	人女延	三、〇〇〇
桑條代	三、〇〇〇	採種男延	三、〇〇〇
蠶種代	三、〇〇〇	女延	三、〇〇〇
計	三、〇〇〇	計	一、〇〇〇

計	差引利益	147,560
支	粗糖	4,000
	木炭	1,500
	消毒費	1,800
	飼育並ニ上儀	1,800
	用藥	9,000
	蠶卵室紙	4,275
	雜費其他	2,500
	検査費其他	1,800
	蠶種販賣費	1,800
	蠶種冷蔵費	1,900
	計	96,735
入	粗糖	50,000
	一貫目ニ付金拾五錢	1,500
	一貫目ニ付金六拾錢	1,800
	一貫目ニ付金參錢	9,000
	一貫目ニ付金四錢五厘	4,275
	石油其他	2,500
	一枚金貳錢	1,800
	組合費一枚金貳錢	1,800
	販賣價格ノ一割並	1,800
	通信運搬費參圓	1,900
	一枚ニ付金貳錢	1,900
	計	50,835

四三〇

計	差引利益	147,560
支	粗糖	4,000
	木炭	1,500
	消毒費	1,800
	飼育並ニ上儀	1,800
	用藥	9,000
	蠶卵室紙	4,275
	雜費其他	2,500
	検査費其他	1,800
	蠶種販賣費	1,800
	蠶種冷蔵費	1,900
	計	96,735
入	粗糖	50,000
	一貫目ニ付金拾五錢	1,500
	一貫目ニ付金六拾錢	1,800
	一貫目ニ付金參錢	9,000
	一貫目ニ付金四錢五厘	4,275
	石油其他	2,500
	一枚金貳錢	1,800
	組合費一枚金貳錢	1,800
	販賣價格ノ一割並	1,800
	通信運搬費參圓	1,900
	一枚ニ付金貳錢	1,900
	計	50,835

乙、特別蠶種製造
一、春蠶種 (對蠶量四匁)
一、現在

計	差引利益	10,000
支	蠶室損料	5,000
	蠶具損料	7,600
	粗糖	4,000
	木炭	3,600
	消毒費	1,800
	飼育並ニ上儀	1,800
	用藥	7,700
	雜費其他	9,000
	検査費其他	3,000
	販賣費	9,900
	計	53,200
入	蠶室損料	5,000
	蠶具損料	7,600
	粗糖	4,000
	木炭	3,600
	消毒費	1,800
	飼育並ニ上儀	1,800
	用藥	7,700
	雜費其他	9,000
	検査費其他	3,000
	販賣費	9,900
	計	53,200

二、將來

計	差引利益	10,000
支	蠶室損料	5,000
	蠶具損料	7,600
	粗糖	4,000
	木炭	3,600
	消毒費	1,800
	飼育並ニ上儀	1,800
	用藥	7,700
	雜費其他	9,000
	検査費其他	3,000
	販賣費	9,900
	計	53,200
入	蠶室損料	5,000
	蠶具損料	7,600
	粗糖	4,000
	木炭	3,600
	消毒費	1,800
	飼育並ニ上儀	1,800
	用藥	7,700
	雜費其他	9,000
	検査費其他	3,000
	販賣費	9,900
	計	53,200

四三一

計		差引利益	三九、七〇〇
水炭	現在ニ同シ		三〇
消毒費	現在ニ同シ		三〇
蠶卵臺紙	蠶製臺紙ニ付		九、二〇〇
飼育並ニ上簇	蠶袋		三、〇〇〇
用藥			三、〇〇〇
雜費			三、〇〇〇
檢查費其他			五、五〇〇
販賣費			三、三三六
計			一四、一五六
一貫目ニ付金拾五錢			四、〇〇〇
現在ニ同シ			一、八〇〇
蠶製臺紙一枚金參錢五厘			九、二〇〇
蠶袋一ケ同五厘			〇、〇〇〇
一束ニ付金參錢			九、〇〇〇
現在ニ同シ			三、〇〇〇
蠶種檢查手數料製造高			三、〇〇〇
ノ手數一枚金參錢組合			五、五〇〇
販賣價格ノ割並ニ通			三、三三六
信運搬費五圓			一四、一五六

ロ、夏秋蠶種 (對蠶量四隻)

一、現在

項	目	數	量	金	額	摘要
除	去	蠶	二	同	八、〇〇〇	
出	殺	蠶	八	同	一八、四〇〇	
蠶	沙	代	三	同	三、六〇〇	
其	他	代	二	同	二〇〇	
蠶	種	代	七	同	一四、七六〇	
計					一四、七六〇	
項	目	數	量	金	額	摘要
蠶	種	代	原	種	二〇〇	
桑	葉	代	飼	育	三〇	
人	夫	賃	女	延	三十	
蠶	室	損	料	女	延	二十
器具	損	料	料	女	延	二十
計					七、〇〇〇	
一貫目ニ付金拾五錢					四、〇〇〇	
現在ニ同シ					一、八〇〇	
蠶製臺紙一枚金參錢五厘					九、二〇〇	
蠶袋一ケ同五厘					〇、〇〇〇	
一束ニ付金參錢					九、〇〇〇	
現在ニ同シ					三、〇〇〇	
蠶種檢查手數料製造高					三、〇〇〇	
ノ手數一枚金參錢組合					五、五〇〇	
販賣價格ノ割並ニ通					三、三三六	
信運搬費五圓					一四、一五六	

計	差引利益	一九、〇一〇
木炭	三	八
消毒料	三	八
蠶卵臺紙	三	〇
雜費	三	〇
檢查手數料其他	三	〇
販賣費	三	〇
蠶種冷藏費	三	〇
計		三〇
一貫目ニ付金拾五錢		四、〇〇〇
現在ニ同シ		一、八〇〇
蠶製臺紙一枚金參錢五厘		九、二〇〇
蠶袋一ケ同五厘		〇、〇〇〇
一束ニ付金參錢		九、〇〇〇
現在ニ同シ		三、〇〇〇
蠶種檢查手數料製造高		三、〇〇〇
ノ手數一枚金參錢組合		五、五〇〇
販賣價格ノ割並ニ通		三、三三六
信運搬費五圓		一四、一五六

二、將來

項	目	數	量	金	額	摘要
除	去	蠶	二	同	九、六〇〇	
出	殺	蠶	一	同	三、〇〇〇	
蠶	沙	代	二	同	三、六〇〇	
其	他	代	二	同	二〇〇	
蠶	種	代	六	同	七四、九六〇	
計					九、六〇〇	
項	目	數	量	金	額	摘要
蠶	種	代	原	種	二〇〇	
桑	葉	代	飼	育	三〇	
人	夫	賃	女	延	三十	
蠶	室	損	料	女	延	二十
器具	損	料	料	女	延	二十
計					八〇	
一貫目ニ付金拾五錢					四、〇〇〇	
現在ニ同シ					一、八〇〇	
蠶製臺紙一枚金參錢五厘					九、二〇〇	
蠶袋一ケ同五厘					〇、〇〇〇	
一束ニ付金參錢					九、〇〇〇	
現在ニ同シ					三、〇〇〇	
蠶種檢查手數料製造高					三、〇〇〇	
ノ手數一枚金參錢組合					五、五〇〇	
販賣價格ノ割並ニ通					三、三三六	
信運搬費五圓					一四、一五六	

計	差引利益	三、三九二	一、〇〇〇	三、三九二	計	差引利益	三、三九二
木炭	現在ニ同シ	一、〇〇〇		一、〇〇〇	木炭	現在ニ同シ	一、〇〇〇
消青並上篋用	現在ニ同シ	一、〇〇〇		一、〇〇〇	消青並上篋用	現在ニ同シ	一、〇〇〇
蠶卵	現在ニ同シ	九、〇〇〇		九、〇〇〇	蠶卵	現在ニ同シ	九、〇〇〇
蠶卵紙	現在ニ同シ	二、〇〇〇		二、〇〇〇	蠶卵紙	現在ニ同シ	二、〇〇〇
雜費	現在ニ同シ	六、〇〇〇		六、〇〇〇	雜費	現在ニ同シ	六、〇〇〇
檢查費其他	現在ニ同シ	三、〇〇〇		三、〇〇〇	檢查費其他	現在ニ同シ	三、〇〇〇
蠶種販賣費	現在ニ同シ	四、〇〇〇		四、〇〇〇	蠶種販賣費	現在ニ同シ	四、〇〇〇
蠶種冷蔵費	現在ニ同シ	八、〇〇〇		八、〇〇〇	蠶種冷蔵費	現在ニ同シ	八、〇〇〇
計	三、三九二	三、三九二	一、〇〇〇	三、三九二	計	三、三九二	三、三九二

四三四

四、製糸

甲、生糸 (繭一個、九貫目)

イ、器械製絲

項	目	數	量	金	額	入	支	目	數	量	金	額	出
生糸	代	九、〇〇〇	斤	六、三三〇	圓	八、八八〇	原料	代	九、一八〇	斤	四、六六〇	圓	一、五二〇
層物	代	二、七〇〇	斤	二〇、五九九	圓	拾四錢	生產費	代	二、七〇〇	斤	二〇、五九九	圓	拾四錢
計	差引利益	一、〇〇〇		三、三九二		計	差引利益	一、〇〇〇		三、三九二		計	差引利益

二、將來

項	目	數	量	金	額	入	支	目	數	量	金	額	出
生糸	代	九、〇〇〇	斤	七、三三〇	圓	八、七〇〇	原料	代	八、七〇〇	斤	五、八八〇	圓	一、八二〇
層物	代	二、七〇〇	斤	一八、三〇〇	圓	拾錢	生產費	代	二、七〇〇	斤	一八、三〇〇	圓	拾錢
計	差引利益	一、〇〇〇		七、三三〇		計	差引利益	一、〇〇〇		七、三三〇		計	差引利益

一、現在

項	目	數	量	金	額	入	支	目	數	量	金	額	出
生糸	代	九、〇〇〇	斤	五、七二〇	圓	一、一八〇	原料	代	九、一八〇	斤	八、八八〇	圓	一、三〇〇
層物	代	三、〇〇〇	斤	二〇、四〇〇	圓	一、二八〇	生產費	代	三、〇〇〇	斤	二〇、四〇〇	圓	一、二八〇
計	差引利益	一、〇〇〇		五、七二〇		計	差引利益	一、〇〇〇		五、七二〇		計	差引利益

四三五

計	差引利益	60,158	計	520,800
---	------	--------	---	---------

二、將來

收		入		支		出	
項目	數量	金額	摘要	項目	數量	金額	摘要
生糸代	9,000	68,800	一貫目二付金七拾六圓五拾四錢	原料代	9,000	570,666	一石二付金六拾圓貳拾一錢一升九分ノ糸量ヲ得ルモノトス
屑物代	2,455	19,835	一貫目二付金八圓壹錢	工費	70,000	70,000	百匁ニ付金七拾八錢
蠶代	1,069	4,191	一升ニ付金參錢九厘	再乾燥費	10,000	10,000	一石ニ付金壹圓拾錢
計	73,523	92,826		計	51,000	621,532	

八、玉糸

一、現在

收		入		支		出	
項目	數量	金額	摘要	項目	數量	金額	摘要
生糸代	9,000	37,200	一貫目二付金參拾壹圓九拾貳錢	原料代	10,000	207,000	一石ニ付金貳拾圓七拾一錢一升八匁ノ糸量ヲ得ルモノトス
屑物代	3,160	25,835	一貫目二付金五圓貳錢	工費	49,500	49,500	百匁ニ付金五拾五錢
蠶代	790	2,781	一升ニ付金貳錢貳厘	再乾燥料	7,500	7,500	一石ニ付金八拾錢
計	12,950	65,816		計	57,000	264,000	

計	差引利益	308,881	計	271,000
---	------	---------	---	---------

二、將來

收		入		支		出	
項目	數量	金額	摘要	項目	數量	金額	摘要
生糸代	9,000	341,800	一貫目二付金參拾七圓九拾八錢	原料代	9,500	235,900	一石ニ付金貳拾四圓八拾四錢一升八匁五分ノ糸量ヲ得ルモノトス
屑物代	2,528	14,303	一貫目二付金五圓六拾錢八厘	工費	59,000	59,000	百匁ニ付金六拾六錢
蠶代	752	2,536	一升ニ付金參錢	再乾燥料	9,000	9,000	一石ニ付金九拾六錢
計	12,280	358,639		計	37,500	423,900	

乙、眞綿 (蘭十石ヨリ生産スル計算)

一、現在

收		入		支		出	
項目	數量	金額	摘要	項目	數量	金額	摘要
眞綿代	9,500	339,000	百匁ニ付金貳圓五拾貳錢	原料代	10,000	100,000	一石ニ付金貳拾圓
蠶代	1,000	16,200	一升ニ付金貳錢壹厘	工費	28,000	28,000	百匁ニ付金參拾錢
計	10,500	355,200		計	38,000	128,000	

第三畜産業

一、産馬

馬匹一頭ニ對スル收支計算

一、現在

支出ノ部

種別	畜殖兼農馬		農社馬		畜殖馬		平均
	金額	備考	金額	備考	金額	備考	
購入費	100,000		100,000		100,000		100,000
器具修繕費	1,000		1,000		1,000		1,000
厩舎修繕費	3,000		3,000		3,000		3,000
組合費	1,000		1,000		1,000		1,000
種付費	2,000		2,000		2,000		2,000
飼養費	3,000	二百四十五日分一日金貳拾錢	3,000	二百四十五日分一日金貳拾錢	3,000	二百四十五日分一日金貳拾錢	3,000
飼草費	4,000	拾錢	4,000	拾錢	4,000	拾錢	4,000
青草費	3,000	拾錢	3,000	拾錢	3,000	拾錢	3,000
雜計	100,000		100,000		100,000		100,000

層物代	計	差引利益	入		出	
			金額	備考	金額	備考
層物代			1,000		1,000	
計			2,000		2,000	
差引利益			3,000		3,000	

二、將來

層物代	計	差引利益	入		出	
			金額	備考	金額	備考
層物代			1,000		1,000	
計			2,000		2,000	
差引利益			3,000		3,000	

收入ノ部

種別	畜殖兼農馬		農		畜殖		平均
	金額	備考	金額	備考	金額	備考	
厩肥	三〇,〇〇〇	三千貫多一貫多金壹錢	三〇,〇〇〇	牝ト同シ	三〇,〇〇〇	牝ト同シ	三〇,〇〇〇
耕作賃銀	四八,〇〇〇	六十日分一日金八拾錢	六〇,〇〇〇	八十日分一日金八拾錢	三六,〇〇〇	六十日分一日金六拾錢	三三,〇〇〇
雜役賃銀	一三,〇〇〇	四十日分一日金參拾錢	一八,〇〇〇	六十日分一日金參拾錢	三六,〇〇〇	六十日分一日金六拾錢	三三,〇〇〇
仔賣上代	二五,〇〇〇	二歳產駒一頭平均五拾圓トシ一年分	一	一	一	一	八,〇〇〇
廢畜賣上代	六〇,〇〇〇	元價ノ一割減	七三,〇〇〇	元價ノ一割減	二〇〇,〇〇〇	元價ノ三割強減	一三〇,〇〇〇
種付料	一〇五,〇〇〇	一	一八五,〇〇〇	一	四六〇,〇〇〇	五十頭一頭金參圓	五〇,〇〇〇
計	三〇五,〇〇〇	一	一八五,〇〇〇	一	四六〇,〇〇〇	一	二六八,〇〇〇
差引損益	損益	一,〇〇〇	・	四,〇〇〇	二七五〇	二,五八〇	二,五八〇

一、將來 (十ヶ年後)

支出ノ部

種別	畜殖兼農馬		農		畜殖		平均
	金額	備考	金額	備考	金額	備考	
購入費	一三〇,〇〇〇	十年前ニ比シ二割増	一〇〇,〇〇〇	十年前ニ比シ二割増	一〇〇,〇〇〇	十年前ニ比シ二割増	一八八,〇〇〇
器具費	一,〇〇〇	一	一,〇〇〇	一	一,〇〇〇	一	一,〇〇〇
廠舎修繕費	三,〇〇〇	一	三,〇〇〇	一	三,〇〇〇	一	三,〇〇〇
組合費	一,〇〇〇	一	一,〇〇〇	一	一,〇〇〇	一	一,〇〇〇
醫藥費	二,〇〇〇	一	二,〇〇〇	一	二,〇〇〇	一	二,〇〇〇
種付料	三,〇〇〇	一	一	一	一	一	一,〇〇〇
計	一三九,〇〇〇	一	一〇七,〇〇〇	一	一〇七,〇〇〇	一	一八八,〇〇〇

收入ノ部

種別	畜殖兼農馬		農		畜殖		平均
	金額	備考	金額	備考	金額	備考	
飼養費	六,二五〇	二百四十五日分一日金貳拾錢	五,五七五	二百四十五日分一日金貳拾參錢	七,三〇〇	二百四十五日分一日金參拾錢	六,〇〇〇
青草費	四,〇〇〇	百二十日分人夫一日金四拾錢	四,〇〇〇	牝ト同シ	四,〇〇〇	牝ト同シ	四,〇〇〇
雜費	三,〇〇〇	一	三,〇〇〇	一	三,〇〇〇	一	三,〇〇〇
計	一三,二五〇	一	一二,五七五	一	一四,三〇〇	一	一三,〇〇〇

一、畜牛

一頭ニ對スル收支計算
一、現在
支出ノ部

種別	畜殖兼農馬		農		畜殖		平均
	金額	備考	金額	備考	金額	備考	
厩肥	三六,〇〇〇	三千貫多一貫多金壹錢貳厘	三六,〇〇〇	八十日一日金九拾錢	三六,〇〇〇	六十日分一日金七拾錢	三六,〇〇〇
耕作賃銀	五〇,〇〇〇	六十日分一日金九拾錢	七三,〇〇〇	八十日一日金九拾錢	四二,〇〇〇	六十日分一日金七拾錢	四二,〇〇〇
雜役賃銀	一四,〇〇〇	四十日分一日金參拾五錢	二,〇〇〇	六十日一日金參拾五錢	四二,〇〇〇	六十日分一日金七拾錢	二二,〇〇〇
仔賣上代	三三,〇〇〇	一	八六,〇〇〇	元價ノ一割減	一六五,〇〇〇	五十頭一頭金參圓參拾錢	一四,〇〇〇
廢畜賣上代	一〇八,〇〇〇	元價ノ一割減	一六,〇〇〇	元價ノ一割減	四八,〇〇〇	五十頭一頭金參圓參拾錢	五,〇〇〇
種付料	三三,〇〇〇	一	三三,〇〇〇	一	四八,〇〇〇	一	三三,〇〇〇
計	一八四,〇〇〇	一	一八五,〇〇〇	一	二四〇,〇〇〇	一	一八七,〇〇〇
差引損益	損益	二,九五〇	三,八五〇	一,五〇〇	一,五〇〇	一,五〇〇	二,七五〇

第四 水産業

一、鯉 漁業

一、現在

收 入		支 出	
項目	金額	項目	金額
鯉 空 不用品賣却代	一五、七五 七六〇	漁夫給料	一、四〇〇、〇〇〇
	五、〇〇〇、〇〇〇	漁夫食料	七〇〇、〇〇〇
	一五、〇〇〇	漁夫酒肴料	八〇、〇〇〇
	五〇〇、〇〇〇	船長手當	五五、〇〇〇
		拾 金	二五、〇〇〇
		輕 油	一、二九五、〇〇〇
		機 油	二五八、〇〇〇
		燈 油	五〇、〇〇〇
		餌 代	一〇〇、〇〇〇
		水 代	一五〇、〇〇〇
		機關及甲板部	六〇、〇〇〇
		消耗品費	一〇、〇〇〇
		通信費	一〇、〇〇〇
		賃 金	一〇、〇〇〇
		損 耗	一〇、〇〇〇
		備 忘	一〇、〇〇〇
		其 他	一〇、〇〇〇
		計	一、四〇〇、〇〇〇

四四七

收入ノ部

種 別	肉 用		畜 用		平 均
	金額	備 考	金額	備 考	
種 別	七、〇〇〇		六、〇〇〇		七、〇〇〇
器 具 費	七、〇〇〇		六、〇〇〇		七、〇〇〇
豚 舎 修 繕 費	一、〇〇〇		一、〇〇〇		一、〇〇〇
醫 藥 費	一、〇〇〇		一、〇〇〇		一、〇〇〇
飼 養 費	一、〇〇〇		一、〇〇〇		一、〇〇〇
種 子 費	一、〇〇〇		一、〇〇〇		一、〇〇〇
飼 料 費	一、〇〇〇		一、〇〇〇		一、〇〇〇
計	二、〇〇〇		二、〇〇〇		二、〇〇〇
種 別	七、〇〇〇		七、〇〇〇		七、〇〇〇
仔 豚 賣 上 代 費	七、〇〇〇		七、〇〇〇		七、〇〇〇
廢 豚 成 豚 賣 上 代 費	一、〇〇〇		一、〇〇〇		一、〇〇〇
種 子 費	一、〇〇〇		一、〇〇〇		一、〇〇〇
計	九、〇〇〇		九、〇〇〇		九、〇〇〇
種 別	七、〇〇〇		七、〇〇〇		七、〇〇〇
廢 豚 賣 上 代 費	七、〇〇〇		七、〇〇〇		七、〇〇〇
仔 豚 賣 上 代 費	一、〇〇〇		一、〇〇〇		一、〇〇〇
種 子 費	一、〇〇〇		一、〇〇〇		一、〇〇〇
計	九、〇〇〇		九、〇〇〇		九、〇〇〇
種 別	七、〇〇〇		七、〇〇〇		七、〇〇〇
廢 豚 賣 上 代 費	七、〇〇〇		七、〇〇〇		七、〇〇〇
仔 豚 賣 上 代 費	一、〇〇〇		一、〇〇〇		一、〇〇〇
種 子 費	一、〇〇〇		一、〇〇〇		一、〇〇〇
計	九、〇〇〇		九、〇〇〇		九、〇〇〇

四四六

合 計	五、六五、四〇〇	諸 稅 金	三〇、〇〇〇
差 引 利 益	六、一七〇	修 繕 費	三、七〇〇
		企 業 費 償 却 費	六、五、九〇〇
		雜 費	六、〇〇〇
		合 計	五、六四、三〇〇

四四八

船體、機關及漁具修繕費
船體四百十六圓九錢、
漁具九十九圓八拾四錢、
漁夫前貸金ニ對スル年
一割ノ金利百貳拾圓
船體上下料並死亡又ハ
遭難ニ依ル前貸金損失

備考

企業費四千參百拾五圓(船體建造費(厨巾一丈一尺二、二〇〇圓發動機一臺二十馬力三、五〇〇圓同上)ナルモ之ヲ以テ
 鯉釣秋刀魚流網及鮪流網漁業ノ三種ヲ經營スルモノナルカ故自ラ共通ノ性質ヲ有ス即チ之ヲ漁期ニ比
 例シ三種漁業ニ按分スレハ鯉漁業二千百五十七圓五錢、秋刀魚漁業壹千七拾八圓五拾錢(鮪ハ省略ス)ト
 ナル而シテ該漁船ノ保存年限ヲ七箇年トシ之レニ金利ヲ加算スレハ其ノ一箇年ノ償却費ハ鯉漁業ニア
 リテハ金 百參拾五圓九拾參錢(船體償却費及金利四一六、〇九漁具償却及)秋刀魚流網漁業ニアリテハ四百七十
 六圓四十錢(船體償却及金利二百八圓五錢漁具償却及)トナル
 (金利百八拾圓參拾五錢前貸金利五拾圓)

二、將 來 (十年後)

項 目	數 量	金 額	備 考	項 目	數 量	金 額	備 考
總 空 不用品賣却代	三〇、〇〇〇	九、〇〇〇、〇〇〇	一尾約參拾八錢	漁夫給料	三人分	三、五〇〇、〇〇〇	漁獲高ノ一割大引其獲 額ノ拾分ノ三ヲ支給ス
	一、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一ヶ拾五錢	漁夫食料	三人分	一、一〇〇、〇〇〇	
		九、〇〇〇、〇〇〇		漁夫酒肴料	三人分	八、〇〇〇、〇〇〇	
		一〇、〇〇〇		船長手當	一人分	八、〇〇〇、〇〇〇	
		九、〇〇〇、〇〇〇		拾 金	一人分	一、〇〇〇、〇〇〇	漁夫一人分五圓
		一〇、〇〇〇		輕 油	九〇噸	一、二〇〇、〇〇〇	一噸壹圓八拾錢ノ見込
		一〇、〇〇〇		機 油	三〇噸	三〇〇、〇〇〇	一噸貳圓ノ見込
		一〇、〇〇〇		燈 油	三〇噸	三〇〇、〇〇〇	
		一〇、〇〇〇		俱 代	三〇個	三、〇〇〇、〇〇〇	一樽參圓
		一〇、〇〇〇		水 代	三、七〇〇	三、七〇〇、〇〇〇	
		一〇、〇〇〇		機關及甲板部 消耗品費		一〇、〇〇〇	漁獲高百分ノ二
		一〇、〇〇〇		通 信 費		一〇、〇〇〇	
		一〇、〇〇〇		預 備 費		一〇、〇〇〇	
		一〇、〇〇〇		諸 稅 金		一〇、〇〇〇	
		一〇、〇〇〇		修 繕 費		一〇、〇〇〇	船體六二圓機關八〇圓 船具一一〇圓漁具一二 八圓
		一〇、〇〇〇		企 業 費 償 却 費		八、〇〇〇、〇〇〇	船體五八六、八七〇圓 船具一一三、八〇〇圓前貸 金利一四八圓
		一〇、〇〇〇		雜 費		八、〇〇〇、〇〇〇	
合 計		一、一八四、八〇〇		合 計		八、〇一〇、一〇〇	

四四九

收		入		支		出	
項目	数量	金額	摘要	項目	数量	金額	摘要
鯉	六九五	1,040,000	一貫目壹圓五拾錢	種鯉代	八一〇〇	44,500	體量十斤内外ノモノ一尾平均六錢
鮪		40,000		溜池借料		20,000	
雜收		35,000		餌料代	鮪四七石大豆 鮪三七ク 田螺其他四〇石	248,200	鮪一石參圓 大豆一ク壹圓六拾錢 田螺其他一石壹圓貳拾錢
雜入				器具代		20,000	
合計	1,111,000	1,111,000		人夫賃		117,500	取魚人夫百人一人一日 六拾錢 餌料運搬人夫百人一人一日 五拾錢 雜役人夫十五人一人一日 五拾錢ノ見込
差引利益		197,800		雜費		50,000	
合計				合計		921,200	

備考

現在ノ放養尾數二千七百尾ナルモ將來ハ一坪當リ一尾ノ割合ニ放養スルノ見込ナリ而シテ其步減ハ三割五分トシ收納時ニ於ケル體重ヲ平均百三十多ト見込ム

第五 工業

一、機業

甲、輸出羽二重

輸出羽二重ノ市價ハ高低常ナラサル狀況ナルヲ以テ之レカ利益計算ハ正確ナル數字ヲ得ルコト甚困難ナル事ニ屬ス然レトモ左ニ示ス計算ハ以テ其ノ一班ヲ知ルニ足ラン

收入

一金拾八圓

二四中三夕付(百四十四夕) 一本代

但百夕ニ付拾貳圓五拾錢ノ割

支出

一金拾五圓貳拾九錢八厘

内譯

金拾參圓六拾八錢

原糸百四十四夕代(百夕經緯糸平均五圓五拾錢ノ割)

金壹圓六拾壹錢八厘

織賃其他生産費

(織賃其他生産費ノ内容左ノ如シ)

項目	金額	備考	項目	金額	備考
織賃	四〇〇	一人二臺持	家賃借料	五八	一ヶ月九圓ノ割
經糸通シ賃	六〇	一算壹錢貳厘ノ割(三十算六本權)	薪炭料	五〇	
經緯糸繰賃	六五	一人月拾拾圓	組合證紙料	五	
管卷賃	三九	一人同 六圓	營業稅諸稅	二〇	
技術擔當者給料	八四	一人一ヶ月拾參圓(整經及機械係)	工場主給料	一二九	一ヶ月貳拾圓
電動力點燈料	一一	一馬力一ヶ月五、七〇モートル損料	事務費	三〇	
蒸掛糸損料	五三	一ヶ月年一、五〇唯灯十八個九圓	金利息	七七	運轉資金一千二百圓月一割
力織機損料	一〇〇	五ヶ年間使用消耗	火災保險料	一二	
機械油代	一〇		職工獎勵及慰勞	三〇	
綱及蠟代	二〇		目切	二四五	
職工賄料補助	二〇		計	一、六一八	

四五八

差引金貳圓七拾錢貳厘

純益金

備考 右調査ハ一馬力ヲ使用スル十二臺ノ力織機工場ヲ標準トシ又其生産力ハ一臺ニ付一ヶ年約三百四日 間運轉シ百五十六本(一月十三)ヲ製織スルモノト見做シ算出セリ

右表ニ依レハ輸出羽二重一本ノ賣價拾八圓ニ對シ二圓七拾錢貳厘即チ一割五分ノ利益ヲ示ス斯ノ如キハ市場 好況ナル場合ト見做サ、ルヘカラス要スルニ輸出羽二重ノ利益ハ其ノ生産組織ノ如何ニ依リ差異アルハ言フ

俟タサルモ原料タル糸價及成品ノ價格ノ相場ニ依リ甚タシク上下アルヲ免レス例ヘハ原糸百匁ニ付拾圓ノ割 トスレハ利益ハ壹圓九拾八錢貳厘ニ減シ又一本ノ相場ヲ拾五圓臺ニ低落スレハ却テ貳拾九錢八厘ノ缺損ヲ見 ルカ如シ

將來生産費ノ節約ニ關シテハ頗ル至難ノ事ニ屬ス只技術ノ改良ヲ促シ成品ノ向上ヲ計リ又生産品ノ信用ヲ益 々高メテ市價ノ昇騰ヲ期セサルヘカラス而シテ其ノ結果ニ依ルモ漸クニシテ一分乃至二分ノ利益ノ増進ヲ計 リ得トスレハ非常ノ成効ト見做サ、ルヘカラス

足踏手織機ノ如キハ固ヨリ種々ノ關係上之レカ利益計算ハ頗ル至難ナルノミナラス其ノ産額モ比較的少ク將 來減少ノ一方ナルヘシト考ヘラル、ヲ以テ略ス

現在	力織機臺數	數	量	價	格	利	益	歩	合
現	三、二五		四三、八二	四、五六、五五		五〇、一〇〇	(一割一分)		
十ヶ年後	三、六〇		五五〇、〇〇〇	七、二七、〇〇〇		八七五、〇〇〇	(一割一分)		

乙、綿織物

綿織物ハ其ノ生産方法ノ異ナルニ因リ收支計算ニ關シテハ勢ヒニ足踏機三力織機ノ二ニ分類セサルヘカラス (一) 足踏機

足踏機ニ依ル製品ハ河沼郡ヲ第一トシ其他縣下各地ニ生産ヲ見ルモ今假ニ坂下町地方ニ於ケル生産物ニ就テ其ノ生産ニ關スル收支計算ヲ舉クレハ大要左ノ如シ

原料代	染料	糊	整理	織	消費	取引	差引	並	緋	布	白	並	紺	並	淺	黃
八二〇	二六三	三八	二一	一〇	九五	四一	九〇	八二〇	一九二	八二〇	二六三	三八	二一	一〇	九五	四一
八二〇	一九二	三八	二一	一〇	九五	四一	九〇	八二〇	一九二	八二〇	二六三	三八	二一	一〇	九五	四一
八二〇	一九二	三八	二一	一〇	九五	四一	九〇	八二〇	一九二	八二〇	二六三	三八	二一	一〇	九五	四一
七八一	五八	三三	二〇	一〇	八〇	三三	一〇〇	七八一	五八	三三	二〇	一〇	八〇	三三	一〇〇	一〇〇
七八一	二六三	三八	二〇	一〇	九〇	四一	九一	七八一	二六三	三八	二〇	一〇	九〇	四一	九一	九一
七六一	一四六	三三	二〇	九	七五	三一	一〇五	七六一	一四六	三三	二〇	九	七五	三一	一〇五	一〇五

備考 原料系ハ全部十六番手一駄貳百五拾圓トシテ計算セリ

(二) 力織機

一 金壹圓貳拾八錢 收入 並綿木綿一反賣價

支出

一 金壹圓貳拾五錢八厘八毛 總生産費

内

- 金八拾三錢參厘 原料代
- 金六錢參厘 織賃
- 金七錢 固定資本償却費
- 金貳錢 職工扶助其他
- 金拾錢九厘九毛 緯糸染代(七十一分)
- 金拾壹錢六厘九毛 經糸染代(八十三分)
- 金四錢壹厘 織物稅
- 金五厘 同業組合費
- 差引
- 金貳錢壹厘八毛 利益金

右ノ如ク一反ニ對スル利益金ハ足踏機ニ於テ却テ多シト雖足踏機ノ生産力ハ一日二反ヲ最高トナスニ反シ力織機ニ在テハ一臺一日四反弱ニシテ而モ女工一人ニテ三臺乃至四臺ヲ受持ツコト必シモ困難ニアラサルヲ以

手 實 計	其 他 實	利 計	益 金
三、八〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇
八〇〇	四三〇	三、四八〇	三二〇
四、五〇〇	四、五〇〇	四、五〇〇	四、五〇〇
一、〇〇〇	五〇〇	四、〇〇〇	五〇〇

備考

以上三表ハ單ニ漆器中標準ト見做シ得ヘキ種類ニ就テ計上シタルモノニシテ要スルニ漆器ハ木地ノ改良及生産力増加ヲ期シ又圖案荷造等ノ改善ヲ計リ價格ノ向上ニ努ムルノ要アルヲ以テ其方針ニ依リ收支ノ見込ヲ計上シタルニ過キス

以上ノ計算ニ依テ考フルニ其利益金ハ硯箱二割會席膳八分三厘吸碗八分四厘ニシテ平均一割二分貳厘ナルモ十年後ニ於テハ硯箱二割六分會席膳二割吸碗一割一分平均一割九分ニ達セシムルヲ得ヘシ今縣下生産額ニ對スル利益計算ノ見込額ヲ舉クレハ左ノ如シ

現 在	後 在	數	量	價	格	利	益	步	合
十 年	十 年	一	一	六六一、三七三	八〇、六八七	一	一	割二分	
				一、五〇〇、〇〇〇	二八五、〇〇〇			一	割九分

三、陶磁器

陶磁器業ノ製造工程ハ甚タ粗雜ナルヲ以テ之レカ收支計算ハ正確ナル數字ヲ得ルコト頗ル困難ナリトスサレハ左ノ計算モ以テ其一斑ヲ示スニ過キサレナリ

甲、電機用磁器

一、現 在

收 入 之 部

一金百三十二圓三十錢

內

百二十三圓五十四錢 (大形二重磚子上等品四千百十八個代但シ一個ニ付金三錢造リ高五千七百個ノ一割五分ハ黨詰ニ至ル迄ニ破損シ積込數四千八百四十五個トナリ上等品ハ其ノ八割五分トス)

八圓七十六錢 (二等品四百八十五個代一個ニ付金一錢八厘積込數ノ一割トス其他廢物二百四十二個)

支 出 之 部

一金百參拾壹圓四拾五錢五厘

內

四拾七圓貳錢五厘 陶土素地代千四百二十五貫一貫ニ付金參錢參厘一個ノ用量二百五十匁トス
拾九圓九拾五錢 造リ代五千七百個分一個ニ付金參厘五毛

拾參圓八拾八錢

乾燥ヨリ施釉ニ至ル迄ノ全賃金

五圓

釉代

壹圓貳拾錢

轆轤其他ノ損料

參圓八拾錢

窯詰ニ要スル全賃金

參圓五拾錢

窯焚ニ要スル全賃金

壹圓五拾錢

窯出賃金

參圓

窯借入損料

貳圓五拾錢

窯積用具借入損料

貳拾七圓六拾錢

松木代百二十束一束ニ付金貳拾參錢

貳圓五拾錢

雜費(營業費其他)

差引利益金八拾四錢五厘

二、將

來(十ヶ年後)

收入之部

一金貳百貳拾圓四拾五錢

内

貳百五圓九拾錢

(上等品四千百十八個代但一個ニ付金五錢造り高五千七百個ノ一割五分ノ窯詰ニ至ル迄ニ破損シ積込數四千八百(四十五個トナリ)上等品ハ其八割五分トス)

拾四圓五拾五錢

(二等品四百八十五個代一個ニ付金參錢積込數ノ約一割トス其他廢物二百四十二個)

支出ノ部

一金百六拾四圓參拾九錢五厘

内

四拾九圓八拾七錢五厘

陶土素地代千四百二十五貫一貫勿ニ付金參錢五厘一個ノ用量二百五十勿

拾九圓九拾五錢

造り代五千七百個分一個ニ付金參厘五毛

拾五圓貳拾七錢

乾燥ヨリ施釉ニ至ル迄ノ全賃金

五圓貳拾五錢

釉代

壹圓參拾貳錢

轆轤其他ノ損料

四圓拾八錢

窯詰ニ要スル全賃金

參圓八拾五錢

窯焚ニ要スル全賃金

壹圓六拾五錢

窯出賃金

參圓參拾錢

窯借入損料

貳圓七拾五錢

窯積用具借入損料

五拾四圓
參 圓
雜費(營業費其他)

差引利益金五拾六圓五錢五厘

乙、普通飲食器

一、現 在

收 入 之 部

一金九拾七圓五拾錢八厘

內

八拾五圓五拾參錢六厘 三合入土瓶上等品二千五百九十二個代但シ積込數ノ八割一個ニ付金參錢貳厘
七圓四拾五錢貳厘 次等品三百二十四個代一個ニ付金貳錢參厘
四圓參拾貳錢 下等品二百七拾個代一個ニ付金壹錢六厘
貳拾錢 五十四個見切物

一金九拾七圓貳拾參錢 支 出 之 部

內

拾七圓八拾貳錢 陶土代五百四十貫一貫久ニ付金參錢參厘
拾七圓四拾六錢 造リ賃三千六百個分一個ニ付金四厘八毛五分
九 圓 書工料三千六百個代一個ニ付金二厘五毛
壹圓五拾錢 吳須代
拾圓八拾錢 乾燥ヨリ施袖迄ノ全賃金
參圓五拾錢 袖 代
壹 圓 轆轤手板其他ノ損料
參圓五拾錢 窯積工及雜役賃金
貳圓四拾五錢 窯焚及雜役賃金
壹 圓 窯出賃金
參圓五拾錢 窯借入損料
貳 圓 窯積道具借入損料
貳拾圓七拾錢 松木代九十束一束ニ付金貳拾參錢
參 圓 雜費(營業費其他)

積込數三千二百四十個窯積迄ニ造リ高ノ一割破損スルモノトシ

差引利益金貳拾七錢八厘

二、將 米 (十ヶ年後)

收入之部

一金百九拾貳圓拾錢

内

- 百六拾八圓四拾八錢 上等品二千五百九十二個ノ代一個ニ付金六錢五厘但積込數ノ八割トス
- 拾四圓五拾八錢 次等品三百二十四個代一個ニ付金四錢五厘
- 八圓六拾四錢 下等品二百七十個代一個ニ付金參錢貳厘
- 四拾錢 五十四個見切物

支出ノ部

金一百貳拾四圓五拾九錢五厘

内

- 拾八圓九拾錢 陶土代五百四十貫一貫外ニ付金參錢五厘
- 拾八圓七拾貳錢 造リ賃三千六百個分一個ニ付金五厘二毛
- 拾圓八拾錢 畫工料三千六百個代一個ニ付金三厘

壹圓六拾五錢

吳須代

拾壹圓八拾八錢

乾燥ヨリ施袖迄ノ全賃金

參圓八拾五錢

釉代

壹圓拾錢

轆轤手板其他ノ損料

參圓八拾五錢

窯積工及雜役賃金

貳圓六拾九錢五厘

窯焚及雜役賃金

壹圓拾錢

窯出賃金

參圓八拾五錢

窯借入損料

貳圓貳拾錢

窯積道具借入損料

四拾圓五拾錢

松木代九十束一束ニ付金四拾五錢

參圓六拾錢

雜費(營業費其他)

差引利益金六拾七圓五拾錢五厘

備考 右ノ計算ハ普通ノ登窯即チ一間棚板四列ヲ並列シ得ル四通リ窯ニ付算定シタルモノニシテ其利益僅
 少ナルモ一家舉ツテ勞働スルヲ普通トスルヲ以テ其工賃ハ即チ利益ト見做スコトヲ得ヘシ
 セメント耐火煉瓦等ハ本文ニ述フルカ如ク株式會社トシテ其組織及設備ニ於テ完備シ必スシモ縣ノ指導

ヲ必要トセス又普通煉瓦、瓦、土管等ハ産額僅少ナルヲ以テ收支計算ハ之ヲ省略セリ

四、製紙

製紙業ノ利益計算ハ左ノ如シ

收 入	一金五圓八拾錢	美濃紙一緋(二千枚)賣價
支 出	一金五圓四拾七錢參厘	總生産費

内 譯

金壹圓六拾錢	白楮 一貫匁
金九拾六錢	白三椗 六百匁
金七拾錢	バルブ 五百匁
金四錢八厘	薬 三百匁
金拾五錢六厘	曹達灰百三十匁
金九錢	苛性曹達五十匁

金貳錢四厘	晒粉 三十匁
金拾貳錢	燃料柴 一 把
金九拾錢	男二人 人夫賃
金八拾七錢五厘	女二人五分 同

差引金參拾貳錢七厘

右ノ如ク現在利益金ハ賣價ノ五分六厘ニ過キスト雖今後ビーター機及乾燥器等ノ使用ヲ普及セシメナハ人夫賃ハ男一人女二人位ニ節約シ得ヘシ其他ノ原料ハ共同購入等ノ方法ニ依リ比較的的低價ニ買入ル、ヲ得ヘキモ將來物價ノ騰貴ヲ豫想セサルヘカラサルヲ以テ十年後ハ右表ノ價格ヲ維持スルモノト見做シ差支ナカルヘシ即チ十年後ニ於テ人夫賃男一人女二人位ト見做ストキハ結局美濃紙一緋ニ對スル差引利益金ハ八拾壹錢貳厘トナリ賣價ノ一割四分ノ利益ヲ得ルニ至ルヘシ尤モ品質ノ改良其ノ他ノ事由ニ依リ十年後ニ於ケル賣價ハ幾分騰貴スヘキモ生産組織ノ發達ハ生産力増加シ其ノ割合ニ價格ハ騰貴セサルヲ以テ暫ク原價ノ儘トシテ計算スルコト、セリ現在及十年後ニ於ケル縣内總生産ノ利益ハ左ノ如シ

現 在	生 産 價 格	利 益 金	利 益 步 合
十 年 後	二二五、八八〇 三六〇、〇〇〇	一一、六四九 五〇、四〇〇	五 分 六 厘 一 割 四 分

第六 林 業

森林ノ收支ハ地味地勢施業法運搬管理等ノ關係ニ支配セラルルコト大ナルハ勿論資本ノ回收永年ニ亘ルヲ以テ金利ニ支配セラルルコトモ亦大ナリ故ニ縣下各地ヲ通シテ中庸ナル土地ノ状態ヲ想定シ價格ノ如キハ將來騰貴スヘキハ明ナルモ時價ヲ標準トシ利率ハ採算上到底高率ヲ許ササル雜天然林ニ限リ五分トシ其他ハ七分トシテ主要ナルモノニツキ毎町歩收支計算ヲ示スコト別紙ノ如クナルモ其ノ要領ヲ掲記スレハ左ノ如シ

種 別	施業期間	收入總額	支出總額	總價純益	前一年當價	地 價	地價ニ對スル 一ヶ年當利率
杉人工造林	翌	八〇九七、四七六	三、七七八、四二八	四、三一九〇、〇四〇	一五、一一五	二六、六七四	〇、〇〇一
扁柏人工造林	翌	二二、二四、六三二	七、三九八、一七三	四、七六、〇〇九	五、三三七	二九、四七	〇、〇〇三
赤松人工造林	翌	三、八五九、五三三	二、三三三、七九七	一、五二五、七三五	五、三三八	二〇、四七一	〇、〇〇四
栗	翌	三、三〇七、〇〇〇	一、八八四、四三三	一、四二二、五六三	六、三三四	二九、九三	〇、〇〇三
樺人工造林	翌	二二、二四、六三二	七、三九八、一七三	四、七六、〇〇九	五、七六六	二八、三八	〇、〇〇三
雜天然林	翌	二、五〇〇、〇〇〇	四、七三七八	七、二七三	一、五〇〇	—	—
漆	翌	二、八二二、五九三	二、四二六、四九六	四、三九、〇九	六、五三三	三七、〇四	〇、〇〇一

ニシテ一例ヲ杉人工造林ニ採レハ一伐期ノ終ニ於ケル純收入ハ四千參百拾餘圓ニシテ是レ即チ毎年拾五圓拾壹錢宛收入アリテ之ヲ年利七分ニ運轉蓄積セルモノト同一ノ義ナリ

主要樹種收支關係一覽表 (一町步當)

年次	摘要	数量	單價	價總	後價	備考
二	補植苗木代	100	1,000	1,000	1,000	八三六,五九六
三	下刈	100	1,000	1,000	1,000	1,000
四	同	100	1,000	1,000	1,000	1,000
五	同	100	1,000	1,000	1,000	1,000
六	同	100	1,000	1,000	1,000	1,000
七	同	100	1,000	1,000	1,000	1,000
八	同	100	1,000	1,000	1,000	1,000
九	同	100	1,000	1,000	1,000	1,000
十	同	100	1,000	1,000	1,000	1,000
十一	同	100	1,000	1,000	1,000	1,000
十二	同	100	1,000	1,000	1,000	1,000
十三	同	100	1,000	1,000	1,000	1,000
十四	同	100	1,000	1,000	1,000	1,000
十五	同	100	1,000	1,000	1,000	1,000
十六	同	100	1,000	1,000	1,000	1,000
十七	同	100	1,000	1,000	1,000	1,000
十八	同	100	1,000	1,000	1,000	1,000
十九	同	100	1,000	1,000	1,000	1,000
二十	同	100	1,000	1,000	1,000	1,000
計	計	100	1,000	1,000	1,000	八三六,五九六
地	主伐收入ノ二割			1,000,000		1,000,000
合	計			1,000,000		1,000,000

四七九

年次	費目	數量	單價	價總	後價	備考
一	地代	100	10,000	10,000	10,000	10,000
二	苗木代	100	1,000	1,000	1,000	1,000
三	雜刈	100	1,000	1,000	1,000	1,000
四	下刈	100	1,000	1,000	1,000	1,000
五	同	100	1,000	1,000	1,000	1,000
六	同	100	1,000	1,000	1,000	1,000
七	同	100	1,000	1,000	1,000	1,000
八	同	100	1,000	1,000	1,000	1,000
九	同	100	1,000	1,000	1,000	1,000
十	同	100	1,000	1,000	1,000	1,000
十一	同	100	1,000	1,000	1,000	1,000
十二	同	100	1,000	1,000	1,000	1,000
十三	同	100	1,000	1,000	1,000	1,000
十四	同	100	1,000	1,000	1,000	1,000
十五	同	100	1,000	1,000	1,000	1,000
十六	同	100	1,000	1,000	1,000	1,000
十七	同	100	1,000	1,000	1,000	1,000
十八	同	100	1,000	1,000	1,000	1,000
十九	同	100	1,000	1,000	1,000	1,000
二十	同	100	1,000	1,000	1,000	1,000
計	計	100	1,000	1,000	1,000	1,000
種別	種別			1,000,000		1,000,000
施業期間	施業期間			1,000,000		1,000,000
造林費	造林費			1,000,000		1,000,000
公租及 管理費	公租及 管理費			1,000,000		1,000,000
地代	地代			1,000,000		1,000,000
計	計			1,000,000		1,000,000
總收入	總收入			1,000,000		1,000,000
純收入	純收入			1,000,000		1,000,000
土地價格	土地價格			1,000,000		1,000,000
一年當 純益	一年當 純益			1,000,000		1,000,000
同上二對 スル年利	同上二對 スル年利			1,000,000		1,000,000

四七八

年	年度	摘要	數量	單價	總價	後價
二十五年	目	第一回間伐 胸高直徑三寸五分	三	100	300	29,900
二十五年	目	第二回間伐 胸高直徑三寸七分	三	200	600	10,200
合計					900	40,100
三	目	下刈費	三	100	300	2,800
四	目	同	三	100	300	2,800
五	目	同	三	100	300	2,800
六	目	同	三	100	300	2,800
七	目	同	三	100	300	2,800
八	目	同	三	100	300	2,800
九	目	同	三	100	300	2,800
十	目	同	三	100	300	2,800
十一	目	同	三	100	300	2,800
十二	目	同	三	100	300	2,800
十三	目	同	三	100	300	2,800
十四	目	同	三	100	300	2,800
十五	目	同	三	100	300	2,800
十六	目	同	三	100	300	2,800
十七	目	同	三	100	300	2,800
十八	目	同	三	100	300	2,800
十九	目	同	三	100	300	2,800
二十	目	同	三	100	300	2,800
二十一	目	同	三	100	300	2,800
二十二	目	同	三	100	300	2,800
二十三	目	同	三	100	300	2,800
二十四	目	同	三	100	300	2,800
二十五	目	同	三	100	300	2,800
二十六	目	同	三	100	300	2,800
二十七	目	同	三	100	300	2,800
二十八	目	同	三	100	300	2,800
二十九	目	同	三	100	300	2,800
三十	目	同	三	100	300	2,800
三十一	目	同	三	100	300	2,800
三十二	目	同	三	100	300	2,800
三十三	目	同	三	100	300	2,800
三十四	目	同	三	100	300	2,800
三十五	目	同	三	100	300	2,800
三十六	目	同	三	100	300	2,800
三十七	目	同	三	100	300	2,800
三十八	目	同	三	100	300	2,800
三十九	目	同	三	100	300	2,800
四十	目	同	三	100	300	2,800
四十一	目	同	三	100	300	2,800
四十二	目	同	三	100	300	2,800
四十三	目	同	三	100	300	2,800
四十四	目	同	三	100	300	2,800
四十五	目	同	三	100	300	2,800
四十六	目	同	三	100	300	2,800
四十七	目	同	三	100	300	2,800
四十八	目	同	三	100	300	2,800
四十九	目	同	三	100	300	2,800
五十	目	同	三	100	300	2,800
合計					15,000	1,100,000
合計					15,000	1,100,000

四八一

年	年度	摘要	數量	單價	總價	後價
二十五年	目	第一回間伐 立木本數 一割胸高直徑二寸五分	三	100	300	29,900
二十五年	目	第二回間伐 同 直徑三寸五分	三	100	300	29,900
二十五年	目	第三回間伐 同 四寸	三	100	300	29,900
二十五年	目	第四回間伐 同 四寸二分	三	100	300	29,900
合計					1200	110,000
合計					1200	110,000

二、扁柏人工造 (一町步當)

年	年度	摘要	數量	單價	總價	後價
二十五年	目	第一回間伐 立木本數 一割胸高直徑二寸五分	三	100	300	29,900
二十五年	目	第二回間伐 同 直徑三寸五分	三	100	300	29,900
二十五年	目	第三回間伐 同 四寸	三	100	300	29,900
二十五年	目	第四回間伐 同 四寸二分	三	100	300	29,900
合計					1200	110,000
合計					1200	110,000

四八〇

四、赤松天然造林

支出

年次	摘要	数量	单价	总价	後
二十年目	第一回間伐一割五分 胸高直徑一寸八分	三三〇本	六〇	三三,〇〇〇	一一三,九七五
二十五年目	第二回同	三六〇	二〇〇	七二,〇〇〇	二九四,〇九七
三十五年目	第三回同	三〇〇	五〇〇	一五〇,〇〇〇	二九三,〇八〇
四十五年目	主伐六寸三分	九八〇	三,二〇〇	三,一三六,〇〇〇	三,八三九,一五三
計				三,八三九,一五三	

三、赤松人工造林 (一町歩當)

支出

年次	費目	数量	单价	总价	後
三十年目	第三回間伐一割五分 胸高直徑四寸三分	二九九	四〇	一二,一六〇	九三,〇五三
四十年目	第四回同	一六九	九〇〇	一五二,一〇〇	五八八,五六一
五十年目	第五回同	一五三	一,〇〇〇	一五三,〇〇〇	四一八,六三〇
六十年目	主伐一八寸五分間	二,三三〇	四,〇〇〇	九,三二〇,〇〇〇	九,三二〇,〇〇〇
計				九,九二〇,二六〇	二,一九二,二九四

年次	目	量	単	價	總	價	後	價
三十五年目	同伐用材	50	300	15,000	17,000	1,500,000		1,500,000
四十五年目	主伐用材 徑八寸枝下二間半 用材外枝幹材	50	300	15,000	17,000	1,500,000		1,500,000
同	果	80	300	24,000	26,000	2,160,000		2,160,000
十四回收入	實	60	300	18,000	20,000	1,800,000		1,800,000
合計					十四回分 十四回分	1,500,000 2,160,000		3,660,000

圖八六

備考

果實收入ハ十八年目ヨリ隔年ニ結實シテ伐期迄十四回結實平均結實本數六百本一本ニツキ平均一升宛一升平均五錢ノ計算

六、櫟人工造林 (一町歩當)

支出

年次	目	量	単	價	總	價	後	價
初年	地苗	300	500	150,000	150,000	1,500,000		1,500,000
	下植	10	500	5,000	5,000	50,000		50,000
	雜下	10	500	5,000	5,000	50,000		50,000
計						200,000		200,000

年次	目	量	単	價	總	價	後	價
二年目	補植苗木代	100	500	50,000	50,000	500,000		500,000
三年目	下刈	100	500	50,000	50,000	500,000		500,000
四年目	同	100	500	50,000	50,000	500,000		500,000
五年目	同	100	500	50,000	50,000	500,000		500,000
六年目	同	100	500	50,000	50,000	500,000		500,000
七年目	同	100	500	50,000	50,000	500,000		500,000
八年目	同	100	500	50,000	50,000	500,000		500,000
九年目	同	100	500	50,000	50,000	500,000		500,000
十年目	同	100	500	50,000	50,000	500,000		500,000
計						5,000,000		5,000,000
地計						100,000		100,000
合計						5,100,000		5,100,000

收入

年次	目	量	単	價	總	價	後	價
十六年目	第一回伐採薪材	16,500	150	2,475,000	2,475,000	24,750,000		24,750,000
十七年目	第二回同	17,500	150	2,625,000	2,625,000	26,250,000		26,250,000
十八年目	第三回同	18,500	150	2,775,000	2,775,000	27,750,000		27,750,000
十九年目	第四回同	19,500	150	2,925,000	2,925,000	29,250,000		29,250,000
計						118,250,000		118,250,000

圖八七

六十年度	第五回同	元,000	120	1,995,000	1,111,662
合計				2,000,000	2,000,000

地代

十六年度	伐採每收入ノ二割			49,500	49,500
十七年度	同			82,500	769,300
十八年度	同			91,500	405,351
十九年度	同			91,500	1,923,598
二十年目	同			80,000	800,000
合計				399,000	2,000,000

七、雜天然林 (一町步當)

支出後價金四拾七圓七拾貳錢八厘
 收入立木賣上金百貳拾五圓
 差引純益金七拾七圓貳拾七錢貳厘
 一ヶ年當純益金壹圓六拾壹錢九厘

諸稅及管理費每年壹圓、二十五年分、年利五分
 伐期二十五年每町五十棚一棚二圓五拾錢

土地ノ賣價 百圓
 同上ノ年利廻リ 〇、〇一六

八、漆人工植栽 (一町步當)

支出

年次	費目	數	單價	總價	後價
初年	苗木代	1,000	150	150,000	150,000
	苗木植付費	1,000	300	300,000	300,000
二年	肥料代	1,000	300	300,000	300,000
	雜費	1,000	100	100,000	100,000
三年	肥料代	1,000	300	300,000	300,000
	肥料代	1,000	300	300,000	300,000
四年	肥料代	1,000	300	300,000	300,000
	肥料代	1,000	300	300,000	300,000
五年	肥料代	1,000	300	300,000	300,000
	肥料代	1,000	300	300,000	300,000
六年	肥料代	1,000	300	300,000	300,000
	肥料代	1,000	300	300,000	300,000
合計				2,000,000	2,000,000

地代其他	計	1	1	4,000	4,000	
------	---	---	---	-------	-------	--

收入 (一町步一年當)

種別	數量	單價	總價	備考
伐竹	100 <small>束</small>	3,500	350,000	
竹皮	100 <small>束</small>	300	30,000	
竹筍	350	100	35,000	
竹枝	1	100	100	
計			415,000	

竹材價格ハ周圍六寸ヲ標準トシ福島市場價格ノ五割トシテ計算セリ
 收支差引利益金參百七拾九圓

一、林產物

木竹材生産ノ根源タル造林ニ就テハ已ニ記スル所アリ又木竹製品即チ工藝ニ關スルモノニ就テハ詳查シ難キヲ以テ之ヲ省キ副產物中主要ナルモノ即チ木炭及椎茸ニツキ左ニ之ヲ掲ク

一、木炭製造

イ、黒炭 (土籠炭)

支出ノ部

- 金參圓 資材代 一籠ニツキ一、二棚 一棚ニツキ金貳圓五拾錢
- 金參拾錢 竈代 築竈並ニ小屋掛共一籠ニツキ三十六人 一人五拾錢宛此金拾八圓六十回使用トシテ一回分計上
- 金壹圓貳拾錢 伐採費 二人四分 一人ニツキ五拾錢
- 金壹圓八拾錢 集材燒製及俵裝費 三人六分同上
- 金壹圓貳拾錢 俵及繩代 正味四ノ目三十俵分 一俵ニツキ金四錢
- 計金七圓五拾錢

收入ノ部

- 金九圓 賣上入金 正味百二十貫 一貫ニツキ竈元七錢五厘
- 差引金壹圓五拾錢 利益

備考 一人ニテ二籠ヲ所用シ自ラ交互ニ燒製スルモノトセハ一日ノ勞銀壹圓拾錢乃至壹圓貳拾八錢ニ相當

ロ、白炭 (石籠炭)

支出ノ部

金七拾五錢 資材代 一竈ニ付〇、三棚 一棚ニツキ金貳圓五拾錢
 金七錢五厘 竈代 築竈小屋掛共三十人一人金五拾錢此金拾五圓二百回使用一回分
 金五拾錢 伐採燒製及俵裝代 人夫一人 一人ニツキ金五拾錢
 金拾參錢五厘 俵及繩代 正味六貫目俵三俵代一俵ニツキ金四錢五厘
 計金壹圓四拾六錢

收入ノ部

金壹圓八拾錢 賣上代 正味十八貫 一貫目ニツキ竈元代金拾錢
 差引金參拾四錢

備考 本計算ハ最モ多ク行ハルル「日竈」ニ據リタルモノニシテ自ラ製炭スレハ一日ノ勞銀八拾四錢トナル

二、椎茸栽培 (精水一千本ニツキ)

一金百五拾四圓七拾錢 總收入高
 一金九拾七圓 總支出高

利益金五拾七圓七拾錢

支出ノ部

一金九拾七圓

内

金拾貳圓 原木代 長四尺徑三寸乃至六寸一千本平均材積八棚一棚ニツキ金壹圓五拾錢
 金拾貳圓五拾錢 寢込費 原木根切、小切鉋目入寢込迄一切人夫二十五人一人ニツキ五拾錢
 金壹圓五拾錢 播種費 種子代及人夫賃共
 金貳拾五圓 楮起費 浸水、運搬、楮起等迄一切人夫五十八人分 一人金五拾錢
 金拾八圓 設備費 乾燥小屋掛人夫及乾燥用器具代
 金拾六圓 採取及乾燥費 採取及乾燥女人夫二十人一人ニツキ金四拾錢此ノ金八圓
 金拾貳圓 雜費 金利及保護手入其他諸雜費

收入ノ部

一金百五拾四圓七拾錢

椎茸賣上代

内

金拾八圓貳拾錢 初年(伐採後三年目秋季ヨリ) 二、八〇〇 一貫ニ付金六圓五拾錢
 金四拾五圓五拾錢 二年 七、〇〇〇 同
 金四拾五圓五拾錢 三年 七、〇〇〇 同
 金貳拾七圓參拾錢 四年 四、二〇〇 同

金拾八圓貳拾錢

五 年

二、八〇〇 同

計

二、三、八〇〇

備考 本豫算ハ七起即チ拾本中七本發生ト看做シテ計算セリ

五〇六

附 録

其ノ一 生産増額一覽表

金拾八圓貳拾錢

五

年

二、八〇〇 同

計

二、三八〇〇

備考 本豫算ハ七起即チ拾本中七本發生ト看做シテ計算セリ

附 録

其ノ二 生産増額一覽表

六、林業

計	其他	下草	木炭	薪材	枕木 水道	下駄材	挽材	角丸材及
八三三,〇〇〇								
五,四八,一四八	五三二,七三三	二五,〇三二	一,〇〇〇,〇〇〇	四,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	三三三,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,三三三,〇〇〇
二,七三,〇〇〇								
現産額ニ約五割ヲ増ス	産額拾萬圓ノモノ竹材、木羽、鹿茸類、自然生薬、樹皮、果實、蜜、其他							拾萬圓以上ノ産額アルモノ以下同シ

七、鑛業

金屬類
一,三三九,三三三
金、銀、銅、鉛、亞鉛

合計	計	土石類	其他	石炭	硫黄
一八三,二五五,七四七	三三,〇〇〇,〇〇〇				
一〇九,八〇八,五七一	六,七八四,七四七	一八七,二九四	三九一,八六九	四六一,二三五	三四九,八三四
七三,四六七,一九	六,八二五,二五三				
	金屬類石炭等ハ現産額ノ二倍石類ハ三倍ニ増額スルモノトス		産額少ナキモノ又鐵石ノ儘賣却シ鑛種別ニ區分シ能ハサルモノ		

福島縣訓令第十九號

内務部	郡市役所
農事試験場	工業試験場
水産試験場	種畜場
原蠶種製造所	輸出羽二重検査所
測候所	物産陳列館
町村役場	

産業ノ興隆ヲ期セムト欲セハ廣ク經濟界ノ趨勢ヲ察シ民力ノ程度ニ鑑ミ一定ノ方針ヲ樹ツルヲ以テ最モ肝要ナリトス勿論時勢ノ變遷ニ應ジ之レカ變更スル場合ナキニアラスト雖由來産業政策ハ之ヲ畫一的ニ施行スルコト能ハス專ラ地方ノ事情ヲ案シ適當ナル施設ヲ爲スヲ要スルヲ以テ自由裁量ノ範圍頗ル廣ク從テ敢テ時勢ノ變遷ニ依ルニアラサルモ動スレハ驟々方針ノ變更ヲ來スナキヲ保セス斯ノ如キハ産業發達上誠ニ遺憾ナリト謂ハサルヘカラス故ニ豫メ内外ノ事情ヲ考察シ方針計畫ヲ定メ而シテ後適當ナル指導ノ下ニ專心實行ノ歩ヲ進メ當業者ヲシテ歸趨ニ迷ハサラシムルハ局ニ産業獎勵ニ當ルモノノ注意スヘキ要點ナリトス

今ヤ歐洲戰亂ノ影響ハ各種ノ方面ニ波及シ就中商工業ノ如キハ其ノ勃興著シク其ノ他一般産業ノ隆盛ヲ來シ資財ノ充溢ヲ見ルニ至レルハ洵ニ欣フヘキ現象ナリト雖其ノ反面ニ於テハ驕奢安逸風ヲ爲スノ傾ナキニアラ

ス惟フニ我カ國現時ノ隆盛ハ一ニ輸出貿易ノ順潮ニ起因ス而カモ其ノ順潮ヲ來セル所以ノモノハ當業者ノ努力ニ依ルモノナシト爲ササルモ要ハ戰亂ニ伴フ輸出減少若ハ杜絶ノ結果ニ外ナラスシテ果シテ長ク此ノ趨勢ヲ持續シ得ルヤ否ヤハ未タ測リ知ルヘカラス殊ニ交戰列國ニ於テハ曠古ノ大戰ヲ構ヘ奮闘シツ、アル背後尙産業ニ貿易ニ國ヲ擧ケテ一層ノ努力ヲ拂ヒ其ノ畫策ト實行トハ之ヲ盡シテ剩ス所ナキノ觀アリ我カ國ノ現狀ニ比スルトキハ實ニ宵壤ノ差ニシテ苟モ安逸ヲ貪ルヘキ時機ニアラス此ニ於テ政府ハ既ニ相當ノ機關ヲ設ケ戰時及戰後ノ經營ニ關シ調査考究ニ努ムルアリ本縣亦其ノ必要ヲ認メ曩ニ産業調査會ヲ開キ官民相會シ左記ノ事項ヲ決議シタル所以ナリトス

本縣ハ廣袤八百九十五方里ノ廣キヲ有シ沿海亦四十里ノ長キニ亘リ山林、原野、湖沼、河川等將來利源ノ開發スヘキモノ極メテ多ク加フルニ電氣動力ノ發生若ハ礦物採取ノ如キハ最モ有望ニシテ實ニ天惠ノ裕カナルモノアリ而シテ是等ノ事業中民間有力者ノ經營ニ俟ツヘキモノハ之レカ企畫ヲ促シ其ノ指導獎勵ヲ要スル事業ニ付テハ所定ノ方針ニ基ツキ直チニ實行シ得ヘキモノハ之レカ實行ヲ期シ新設ノ事業若ハ令規ノ改廢ヲ要スルモノ經費ニ關係アルモノ等ニ至リテハ緩急輕重ヲ斟酌シ財政狀態ニ鑑ミ漸次施設ノ方法ヲ講セムトス當路者亦宜シク此ノ旨ヲ諒シ其ノ能ク施行シ得ヘキ範圍ニ於テ適當ノ計畫ヲ樹テ之レカ遂行ヲ期スヘシ

大正七年五月十一日

福島縣知事 川崎卓吉

第一部 農業

第一 普通農業

- 一、主要農産物ノ增收並改良ヲ圖ルコト
 - 二、農村經濟ノ發達ヲ圖ルコト
 - 三、勞力ノ調節及利用ヲ圖ルコト
 - 四、農産物ノ貯藏並販賣方法ノ改善ヲ圖ルコト
 - 五、二毛作ノ普及ヲ圖ルコト
- 農事機關ノ連絡ヲ圖リ歩調ヲ一ニシテ統一シタル方針ノ下ニ業務ヲ進捗セシムルハ農政上最モ重要ノ事項ニシテ之ト同時ニ農村ノ基本調査ヲ遂行シ智識技能ノ啓發、各種ノ改良獎勵勞力ノ調節利用、金融及農産物販賣方法ノ改善ヲ圖リ農村經濟ノ發達ヲ企畫セントス

實行方法

- 一、縣郡市勸業主任及技術員農事試驗場員並縣郡市農會技術員協議會ヲ毎年一回以上開催スルコト
- 二、講習講話ニハ可成實地指導ヲ併セ行ヒ且統計圖解模型標本等ニ依リ當業者ノ印象ヲ適確ナラシムル事
- 三、部落ヲ一區域トスル農事實行組合ヲ設立セシメ之レカ活動ヲ促スコト

四、米穀検査ヲ施行スルコト

但當分移出米並農業倉庫入庫米ニ縣検査ヲ行ヒ生産検査ハ同業組合ヲシテ行ハシムルコト

五、農業倉庫ノ建築改築修繕又ハ買入ニ要スル費用ニ對シ相當補助ヲ爲スコト

六、農事試験場分場ヲ設置シ地方的試験研究ヲ爲スコト

七、主要農産物優良品種ノ普及ヲ圖ル爲メ農事試験場ニ原種圃ヲ設置シ郡市ニ第一次採種圃ヲ町村ニ第二

次採種圃ヲ設置セシムルコト

八、牛馬耕ヲ獎勵シ深耕ヲ爲サシメンカ爲左ノ方法ヲ講スルコト

イ、産業組合地主又ハ農工銀行等ヨリ低利資金ノ供給ヲ圖リ農用牛馬ノ購入飼養ヲ容易ナラシムルコト

ロ、優良耕器ヲ普及セシムルコト

九、土壌ノ性状ヲ調査シ其地方ニ於テ改良スヘキ事項ヲ知ラシムルコト

十、二毛作ヲ爲シ得ヘキ面積ヲ調査シ之ヲ基礎トシテ作付セシムルコト

十一、病虫害及野鼠ノ驅除豫防方法ヲ知悉セシメ共同的ニ實行セシムルコト

十二、農業倉庫、産業組合、農會等ヲ利用シ農産物ノ共同販賣販路調査並幹旋ヲ爲サシムルコト

十三、農産物市場經營ニ關スル調査ヲ爲シ適當ノ地ニ設置セシムルコト

第二 特用農産

(一) 煙草

一、栽培方法ノ改善ヲ圖ルコト

二、乾燥調製等ヲ改良スルコト

煙草耕作ニ關シテハ專賣局ト協力シテ栽培方法、乾燥調製等ニ付改良ヲ加ヘントス

實行方法

一、煙草ニ關スル技術者ヲ設置スルコト

二、耕作ニ關スル講習講話會ヲ開催スルコト

三、試験耕作ヲ獎勵スルコト

四、良種ノ採種ニ努メ特徴ノ維持ヲ圖ルコト

(二) 藥用人參

一、病害豫防驅除ノ方法ヲ研究スルコト

二、販賣方法ノ改善ヲ圖ルコト

三、跡地ノ利用及恢復年限ノ短縮ヲ圖ルコト

人參栽培上最モ困難ヲ感スルハ傳染力ノ猛烈ナル赤腐病ニ對スル適切ナル豫防方法ナキト販賣組織ノ不完全ナルトニ在リ故ニ之ニ對シテ相當ノ方法ヲ講スルハ斯業經營上須急ノ要件ナリトス而シテ之ト同時ニ跡地ノ利用ヲ全ウシ可成恢復年限ヲ短縮セシメサルヘカラス

實行方法

- 一、生産販賣組合ヲ組織シ品質ノ整一ヲ期スルコト
- 二、農事試驗場ノ直營並篤志家ヘノ委託事業トシテ病害ノ豫防驅除法並跡地ノ利用ニ付研究ヲ遂行セシムルコト

(三) 蒟 蒻

- 一、病害驅除豫防ノ方法ヲ研究スルコト
- 二、品種及栽培方法ノ改良ヲ圖ルコト
- 三、荒粉乾燥法ノ研究ニ努ムルコト

蒟蒻ニ對スル病害ノ打擊ハ實ニ甚シキモノアリ之カ豫防法ノ考究ハ荒粉乾燥法ト共ニ斯業剩下ノ急務ナリトス而シテ品種及栽培方法肥料配合等ノ改良ヲ行ヒ一ハ病害ニ對スル抵抗力ヲ強メ一ハ被害ニ依ル減收ノ度ヲ輕カラシメ他ハ以テ收穫ノ増加ヲ圖ラントス

實行方法

- 一、農事試驗場ノ直營或ハ委託試驗ニ依リ品種及栽培、病害豫防法並荒粉乾燥法等ニ關シ試驗研究ヲ遂行スルコト
- 二、生産及販賣ニ關シ共同的施設ヲ爲サシムルコト

第三園 藝

(一) 果 實

- 一、既設果樹園ノ整理改善及果樹園ノ新設ヲ圖ルコト
- 二、病虫害ノ驅除豫防ヲ勵行スルコト
- 三、販路ノ調査斡旋及販賣組織ノ改善ヲ圖ルコト

果樹ノ經營ニ付テハ尙改善ノ餘地多ク殊ニ病虫害ノ慘害年々激烈ナルモノアリ故ニ之レカ驅除豫防ヲ勵行スルト共ニ果樹園ノ開設ヲ促カシ栽培技術ノ改良品種ノ撰擇等ニ努メ品質ノ向上ト販路ノ擴張トヲ圖ラントス

實行方法

- 一、主要生産地ニ専門技術者ヲ設置セシムルコト
- 二、生産販賣ニ關シテハ共同的施設ヲ爲サシムルコト
- 三、農事試驗場ニ於テ罐詰乾果若クハ「ジャム」「ゼリー」ノ如キ加工ニ關スル試驗研究ヲ爲シ又傳習會ヲ開

催スルコト

(二) 蔬 菜

一、品種及栽培技術ノ改良並增收ヲ圖ルコト

市街地附近ノ村落ニ於ケル蔬菜栽培ハ全國到ル處其實行ヲ見サルハナク而カモ概ネ成功シツ、アルノ現況ナリ故ニ之レカ獎勵ニカラ注キ又一面改良增收ヲ圖リ尙進シテ販賣方法ニ改善ヲ加ヘントス

實行方法

- 一、種苗ノ共同購入ヲ斡旋スルコト
- 二、公設市場ヲ經營セシムルコト

第四 副 業

一、適切ナル副業ノ普及ヲ圖ルコト

由來副業ハ頗ル多種ナルト共ニ各種ノ業態ト錯雜混淆シ其普及ハ經濟ノ安固努力ノ調節等ノ上ニ於テ最モ緊要ナル事項ナルヲ以テ大ニ之レカ發達ヲ促サントス

實行方法

- 一、縣農會ヲシテ專務職員ヲ設置セシムルコト

- 二、原料ノ購入生産物ノ販賣ハ可成共同ノ方法ニ依ラシムルコト
- 三、縣農會ヲシテ副業ニ關スル傳習ヲ爲サシメ又郡市農會ニ於テ傳習ヲ行フ場合ハ縣農會ヲシテ補助セシムルコト
- 四、各地ニ視察員ヲ派シ販路又ハ生産狀況ヲ調査セシムルコト

第五 肥 料

- 一、綠肥及堆肥ノ増加ヲ圖ルコト
- 二、肥料ニ關スル智識ノ啓發ニ努ムルコト

肥料ノ需用ハ年々増加スルヲ以テ綠肥栽培ヲ獎勵シ又一面堆肥ノ増加及改良ヲ圖リ以テ農家經濟ノ安全ヲ期セントス

實行方法

- 一、水田ニ毛作又ハ桑園果樹ノ間作トシテ綠肥用作物ヲ栽培セシムルコト
- 二、種子ハ可成共同購入ヲ爲サシムルコト
- 三、篤農家ヲシテ模範栽培ヲ爲サシメ綠肥ノ有利ナルコトヲ周知セシムルコト
- 四、家畜ヲ飼養セシメ厩肥ノ増加ヲ圖ルコト

- 五、簡易ナル堆肥舎ヲ建設セシムルコト
- 六、堆肥製造及金肥ノ配合ニ關シ實地指導ヲ爲スコト
- 七、町村農會又ハ篤農家ヲシテ模範作ヲ爲サシメ施肥ノ經濟的效果ヲ示スコト

第六 耕地整理

- 一、耕地擴張並土地改良事業ノ普及ヲ圖ルコト
- 耕地整理ハ土地ノ利用上重大事業ナルヲ以テ先ツ工事施行ニ對スル基本的調査ヲ遂行シ精密ナル設計調査ノ下ニ起工ヲ獎勵セントス

實行方法

- 一、耕地擴張見込地及水利調査ヲ爲スコト
- 二、測量設計及事業費補助ヲ續行スルコト
- 三、開田地ノ區域廣大ニシテ且工事比較的困難ナルモノニ對シテハ縣ハ特殊工事ヲ施行シ工事竣工ノ上工事費ノ全部又ハ一部ヲ償還セシムルコト
- 四、事業資金ノ調達ニ關シ相當ノ監督斡旋ヲ爲スコト

第二部 蠶糸業

第一 養蠶

- 一、生産組織ノ改善ヲ圖ルコト
 - 二、飼育技術ノ向上ヲ圖ルコト
 - 三、品種ノ改良統一ヲ圖ルコト
 - 四、秋蠶ノ普及増進ヲ圖ルコト
- 生産組織及蠶兒飼育ノ技術ハ尙改良ヲ要スルモノ尠カラス又繭質ノ向上ハ品種ノ改良ニ俟ツヤ言ヲ要セサル所ニシテ殊ニ秋蠶ハ勞力、氣候等ノ上ヨリ之ヲ見ルニ最モ本縣ニ適合スルヲ以テ此等ニ對スル改良普及ヲ圖ルト共ニ尙進シテ經營方法ニ改善ヲ加ヘ堅實ナル發達ヲ促サントス

實行方法

- 一、蠶業教育殊ニ女子蠶業教育ヲ獎勵スルコト
- 二、常設養蠶組合ノ設立ヲ獎勵シ蠶業ノ改良及共同經營ヲ爲サシムルコト
- 三、養蠶組合聯合會ヲ組織セシムルコト